

# 実践研究「立少トントンまなびたい」 中間報告書



令和5年3月

国立立山青少年自然の家

## 目 次

I 環境教育の現状と課題	P 1
II 課題解決のために本研究が目指すもの	P 1
III 本研究について	P 1
IV 研究の成果	P 2～
V 専門委員による中間評価	P 7～
VI 研究の歩み	P 9～

令和3年度のあゆみ	P 9
トントンまなびたいⅠ「初夏の森歩き」	P 10～
トントンまなびたいⅡ「(登山・) 森歩き」	
トントンまなびたいⅢ「秋の森歩き」	P 12
トントンまなびたいⅣ「冬の森歩き・雪遊び」	P 13～
トントンまなびたい・指導スタンダード(春・夏)	P 15～
トントンまなびたい・指導スタンダード(秋)	P 17～
トントンまなびたい・指導スタンダード(冬)	P 19～
トントンまなびたい・指導スタンダード(沢歩き)	P 21～
トントンたんけんたい・事前アンケート(令和4年度用)	P 23
トントンたんけん隊 アンケート結果のまとめ(令和5年5～8月)	P 24～
令和4年度のあゆみ	P 26
第1回専門部会のまとめ ・幼児事業プログラム	P 27～
第2回専門部会の内容を受けて・低学年事業プログラム	P 37～
第3回専門部会の内容を受けて・中学年事業プログラム	P 41～

## I 環境教育の現状と課題

国立青少年教育振興機構が2021年3月に発表した「青少年の体験活動等に関する意識調査(令和元年度調査)」によると、自然体験が豊富な子供は、自己肯定感が高く、自立的行動習慣や探究力が身につけている傾向がある。しかし、2010年代を通じて、子供の自然体験の一部に、やや減少傾向がみられる。さらに、ここ3年間は、新型コロナウイルス感染症の流行とともに、自然体験が著しく制限されている現状がある。

また、近年の世界的な潮流として、持続可能な社会を創るためのSDGs達成のための教育(ESD)の推進に向けた内外のニーズが一層高まっている。

これらのことを踏まえ、国立の社会教育施設である本施設が、自然体験活動を通して環境教育を推進することに大きな意義があると考えます。

## II 課題解決のために本研究が目指すもの

本施設は、北アルプス立山連峰のふもと、標高600~700mの不動平にある。ミズナラ、クリなどを主体とした広葉樹の自然林や整然とした立山杉の人工林などに囲まれ、ニホンカモシカをはじめとする多くの野生生物が生息しており、豊かな自然の中で多様な体験ができる恵まれた環境にある。この恵まれた環境を生かし、幼児期からの系統的な環境学習を実践することにより、自然を愛し、環境を大切に思い、自他の命を大切にすることを子供を育てることを本研究は目指している。

## III 本研究について

### 1 研究テーマ 「幼児期からの環境学習」

### 2 研究の視点

- ・自然体験活動で、自然に対する興味関心を高めたり、感性を養ったりすることが、環境を大切に思う心を育む契機となる。(検証方法を、「達成度(頑張ったこと・楽しかったこと・学んだことを包含)」と、「自然環境との同化」とする。)

### 3 研究委員

委員長	滝口 圭子 先生	金沢大学人間社会研究域 学校教育系教授
委員	稲垣 甚二 先生	国立立山青少年自然の家・研修指導員
〃	風間 宣夫 先生	富山県民間保育連盟会長
〃	本田 敏也 先生	富山県退職校長会(元富山市小学校長会長)

### 4 研究方法

(1) 令和3年度は、年間4回来所する園「高原保育園(立山町)」に研究協力を依頼した。その成果を踏まえ、令和4年度は、年間4回の教育事業(公募型)において、自然体験活動を行い、幼児期から小学校までの環境学習の研究を系統的に行った。

- ・幼児は、昨年度の実践研究事業で実施した活動をベースに、精選したプログラムを1つ加えて、活動内容のバリエーションを増やす。
- ・小学生は、生活科・理科に関連した学習をもとに、研修支援団体への新たなプログラムを開発する。参加者や引率者からもアンケートをとり、ニーズに応じた指導を展開できるようにする。高学年に関しては昨年度の特色化事業での成果を生かして、既に研修支援団体へプログラムの提供を始めている。教育事業「清流王国とやまの水守り隊」とリンクして、学びを「生かす」ことができるようにする。

(2) 研究記録の方法

- ・教育事業の様子を動画撮影し、動画記録を基に考察する。
- ・活動後、教育事業参加者や引率者等に「達成度(頑張ったこと・楽しかったこと・学んだことを包含)」、「自然環境との同化」について、インタビューやアンケートを実施する。

(3) 考察

- ・記録を基に「達成度(頑張ったこと・楽しかったこと・学んだことを包含)」の分類と類型化を行う。
- ・収集したデータを基に、研究テーマについて考察を行う。
- ・「自然環境との同化」という観点をを用いて、研究の成果を評価する。

IV 研究の成果

令和3年度

①各季節に応じた指導スタンダードの作成

- 本施設指導員のスキルアップ
- 保育者自身が環境を知り、興味をもつきっかけづくり・幼児を認める言葉の提供

「トントンまなびたい」指導スタンダード 「トントンの森 春・夏バージョン」

1 ねらい

- ・自分の力で最後まで頑張る。 ・友達と仲良く活動する。 ・ドロドロ、ピシャピシャになって遊ぶ。
- ・自然の中で得意顔を見付ける。「つるつる・ざらざら・つやつや・きざきざ・ひびひか・ふわふわ・すべすべ・ちくちく等」
- ・五感を生かして、おもしろい、きれい、ふしぎなたくさん見つける。

2 展開

※場所（森に表示された番付道）ごとに分類

区	○数字…子供の活動（予想される子供の姿） ●追加指導事項	※指導者の支援 ◁安全配慮事項
15分	<p><b>1 トントンの森を知る。トントンの森の特徴的な木を知る。 学習ゾーン</b></p> <p>① キツツキのドラミングのスピードのクイズ（3択）に答える。正解「手でたたくより、くちくちく」</p> <p>② カメの木を知る。→葉がカメの甲羅の形・冬芽はウサギの目の形</p> <p>③ ホウの木を知る。→森で一歩大きな木にびっくり「ホオー」</p> <p>④ 木のシャワーの気持ちよさを伝える。→葉ごしに雨粒を浴びる</p> <p>● 空を見上げ、葉と葉の間から見える青空の美しさを感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラミングの速さを手で表現する。ミュージックプレーヤーで実際の音を聞く。</li> <li>・ウサギとカメの足跡を思い起こす。</li> <li>・葉が大きな木と葉の大きさを比べる。</li> <li>◇ 森での注意事項を再確認する。「走らない、音虫に気をつける、帽子・長靴着用等」</li> </ul>
15分	<p><b>2 木や葉っぱでおもしろい遊び。 遊ぶ・感じるゾーン</b></p> <p>① 木にぶら下がる。登る。滑る。【コキツバキの音・揺るりの木】</p> <p>② 葉の音（葉歌）を聴かして見る。葉の音やリズムで遊ぶ。</p> <p>③ 葉の行列を見る。【1番番付道と2番番付道の間】</p> <p>● 「ヤッポッ」と叫ぶ。【2番番付道・東山山口に向かって】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木の揺り遊び（劇や物語の主人公）</li> <li>・無断に踏み込まない。命を守る。</li> <li>◇ 子供に寄り添い、木からの落下を防止する。</li> </ul>
	<p><b>3 急な下り坂や上り坂を歩く。 挑戦ゾーン</b></p> <p>① 短い距離で、手で杖をつきながら、ゆっくり下る。</p> <p>② 杖や木につかまりながら、滑り坂を上る。</p> <p>● チマザサを知る。→葉は、ますのすしに使用。スタケ採取</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然に助けてもらおう！」</li> <li>◇ 事故（怪けの会）で、前後への転がり方（顔を守る）を確認する。</li> </ul>
	<p><b>4 木のよさを伝える。木の強さを伝える。 遊ぶ・感じるゾーン</b></p> <p>① クロモジの木のおもしろさを感じる。→茶室の木の丸太杖の使用。</p> <p>② コシアブラの木のおもしろさを感じる。→山菜・夫ぶらが美味しい。</p> <p>● 杉の木と相撲をとる。【杉の森の間】</p> <p>● 杉の森で遊ぶ。→木に抱きかかると、かっかんぽ。</p> <p>● 自分の行きたいコースを選択して進む。【4番番付道】</p> <p>● 杉の木の高さを感じる。→森の中が面白い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杖の採取した部分が匂い強弱し、生活で使用されていることを伝える。</li> <li>・子供全員で杉の木を押ししるしみる。</li> <li>◇ 落下した杖の強弱な扱いに注意。</li> <li>◇ どちらに進んでも合流する。</li> </ul>
	<p><b>5 危険な道（丸木・粘土質の道・急な下り坂）を歩く。 挑戦ゾーン</b></p> <p>① 丸木の上を落ちないように葉を付けて渡る。</p> <p>② 粘土質の道を渡りながら、ゆっくりおちたりする。</p> <p>③ 短い距離で、手で杖をつきながら、ゆっくり下る。</p> <p>● キツツキの音を見付ける。【5番番付道】</p> <p>● 自分の行きたいコースを選択して進む。【4番番付道】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「落ちると喉に食べられるよ！」</li> <li>◇ 周囲に石があるのを、ゆっくおちく。</li> </ul>
	<p><b>6 霧で一番の難所を越える。 挑戦・応援ゾーン</b></p> <p>① 木の根っこを乗り越え、水の中に入る。ふちを歩く。</p> <p>② 木の根の道を、崖に落ちないように進む。</p> <p>③ 難所を乗り越えようとして頑張る友達を応援する。【雨後の森】</p> <p>● 大きなツリノ木を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滑ってを挑戦するよさを伝える。</li> <li>◇ 崖に落ちないように、左側を歩く。</li> <li>◇ 終了した子供の安全管理も大切。</li> <li>● 「大きくてびっくり！」</li> </ul>
	<p><b>7 みんなでゴールの喜びを分かち合う。 喜びゾーン</b></p> <p>① 7番番付道を見つめ、ゴールが近いことをみんなに知らせる。</p> <p>② ゴールした喜びを、みんなで表現したり、ハイタッチで共有したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供どうしの声かけを大切に。</li> <li>・子供の笑顔を見入りに聴く。</li> </ul>



※「春・夏用スタンダード」 各季節の指導スタンダードの詳細は、P 15～22に掲載

②トントンたんけんたい事前アンケートの作成・配付

- 園のねらいに応じた活動（事前指導・コース・時間等を選択）を提供することが可能になった。

※「トントンたんけんたい事前アンケート（令和4年度用）は、P 23に掲載

①「幼児期から小学校高学年までの系統的な環境教育の系統表」の作成

→ 系統表の作成を通して、自ら探究学習を展開することができる系統的な環境教育プログラムの提供が可能になった。

<新・立少周辺での環境プログラム系統表>

R4.12.22 バージョン

自然にどっぷりとつかる = 自然環境との同化

※学び=遊び

5年理科  
流れる水の働きと土地の変化  
6年理科  
人と環境との関わり

3年理科  
身の回りの生物  
4年理科  
季節と生物

1・2年生活科  
季節の変化と生活  
自然や物を使った遊び

【既存のトントン探検隊】  
○ドロドロ・ビシャビシャ体験  
+ R3 研究成果  
・コース選択可  
・指導スタンダード配布  
+ R4 研究  
・新プログラム  
・ハートントンの森で活動



自然からの恵みを尊び、自然とのつながりの深さを感じることができる資質



### ③ 中学年授業プログラムの提供が可能に

- 本施設だけではなく、学校の身近においても実施できるプログラムの提供
- 実際の活動の様子をHPより確認できるようにし、研修支援団体（学校等）が授業等で活用できるようした。今後は、自ら探究学習を展開できるようブラッシュアップする。

## 進行案 「冬の自然で生きる」の活動

### 45分間 ◇導入【教室にて】

「4枚の写真を比べてみましょう。」 ※学校付近の森の各季節の落葉樹の様子を見る。【比較】  
「ビデオを見ましょう。」 ※秋の際の落ち葉が落ちる様子を見せる。

「木が葉っぱを落とすのは不思議だね。葉っぱが全部落ちた木は、どうなるのかな？」

葉っぱが全部落ちた木がどうなっているか、既習事項や生活体験をもとに話し合う。

①グループで話し合う ②全体で話し合う

・「木は落葉しても、寒い森の中で生きていること」に気付かせるような話し合いとする。

・指導者は、「共感」「繰り返し」「受け止め」を大切にしながら、話を聞く。

「いろいろな考えがありましたね。木が葉っぱを落とす他にも、冬の森には、不思議なことがたくさんあります。実際に外に出て、冬の森の動物・植物・昆虫の不思議を見つけてみよう。

そして、不思議なことの答えを見つけてみよう。この部屋にあるものは自由に使ってよいです。足りないものがあれば、教えてください」

### 事前準備するもの

ルーペ・ビニール袋（収集用）・観察ノート・鉛筆・ハサミ・カッター・カッター板・図書資料・タブレット

### 90分間 ◇活動開始

森での現地学習と、教室での調べ活動（図書・インターネット）を適宜行う。

各自で不思議を見つける。…指導者から見えないところには行かない。

冬の森の不思議の例

- ・種を作り命をつなげる（植物） … 種を探す・調べる
- ・落葉しても枝に芽をつけ冬を越す … 冬芽をたくさん見付ける・調べる・比較する
- ・冬眠・休眠する（動物・昆虫） … 動物の痕跡を探す（足跡・糞）
- ・蛹や卵で冬越しする（昆虫）など … 虫を探す・蛹や卵を探す・調べる

自然に興味をもつことができない児童への手立て（不思議を指導者が紹介する）

- ・木の根回り穴
- ・雪の下に緑の葉
- ・雪中と地中の温度の違い
- ・冬芽 等

### 45分間 ◇まとめ【教室】

学びの発表会

- ①学びの振り返り（学んだこと・今後学びたいことを用紙に記入し整理する）
- ②グループでのミニ発表会 ⇒ ③全体への発表
- ④発表会を終えての振り返り（一人で）

※ 以下のQRコードより実際の映像をご覧ください

① 「室内での学習」

9分21秒

導入 → 班での話し合い  
→ 全体への共有

①



② 「興味をもつための手立て」

5分41秒

②



③ 「屋外での活動」

18分38秒

③



④ 「調べ学習（室内）」

7分49秒

④



⑤まとめ（共有）

6分56秒

班での共有 → 全体への共有  
→ 振り返り

⑤



## V 専門委員による中間評価

### ◇研究全体について「研究への期待・見えてきた課題及び成果・今後の視点」

委員長 滝口 圭子 先生 金沢大学人間社会研究域 学校教育系教授

まず、本研究の成果として、以下の2点を挙げる。

1点目は、「新・立少周辺での環境プログラム系統表」の作成である。「自然体験活動」を実践の場とし、幼児から高学年にかけての「発達」「発達に応じた学びの形態」「教育の指針や要領 1)」を踏まえた系統表の編成は、本邦初の試みであり、極めて高い評価に値する。専門委員からの多岐に渡る指摘に誠実に対応しながら、本事業の意義を徹底的に追究した事業関係者の姿勢には、頭が下がる思いである。

2点目は、年長児及び低学年を対象とする活動プログラムの作成である。本活動は、(1)単発ではあるが(1泊2日という比較的長い時間に渡って実施される点、(2)上述の系統表との往還が想定されている点、(3)実践を踏まえた検証を経ている点が評価される。特に、(3)の検証は、幼児児童の「活動時の言動」や「活動後の感想」の分析及び考察に基づいており、子どもの生(なま)の声と対峙する検証方法は特筆に値する。

次に、今後の課題(あるいは展開)は、以下の2点である。

1点目は、中学年及び高学年を対象とする活動プログラムの作成である。既に年長児、低学年を対象とする実績があり、基本的な作成工程は確立している。引き続き、系統表との照合を踏まえた活動の企画、検証に必要な情報の収集と分析、検証を踏まえた活動プログラムの改訂に取り組んでいただきたい。

2点目は、幼児児童の意見の表明を可能にする大人(指導者、保育者、教師等)の振る舞いの検討である。それは、(1)大人からの情報提示の方法、(2)幼児児童が意見を表明したくなる環境の設定、(3)幼児児童の意見表明に対する大人の対応の3つに大別される。(1)の具体的内容は、適切な言葉の選択や情報提示順序、多重課題にならない情報提供、過不足の(少)ない教材の準備等である。(2)の具体的内容は、信頼関係の醸成、多様性の受容、その場での振る舞いに関する規範の提示内容等である。(3)の具体的内容は、受容、同意、尊重等の態度の示し方等である。

最後に、今後の期待として以下の2点を挙げる。

1点目は、系統表と活動プログラムの更なる検討を経ての完成である。これまでと同様に、実践と実践に基づく検証を重ね、全国あるいは外国での活用に堪え得る系統表と活動プログラムの策定を心待ちにしている。

2点目は、事業関係者の子どもを捉える視点の更なる広がりや深まりである。本報告時点においても、事業関係者は、幼児児童の志向、試行、思考のあり方を、より正確に把握(しよう)とする態度を獲得したと判断する。今後の活動を通して、その態度を、より温かく豊かなものにしていただけることを、切に希望する。

1) 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領が含まれる。

### ◇トントンの森とハートントンの森について

委員 稲垣 甚二 先生 国立立山青少年自然の家・研修指導員

トントンたんけん隊の世話をして何年にもなる。活動の中で、子供たちが、自然を見たり自然とふれ合ったりするきっかけとなるよう植物や動物について紹介してきた。自然への興味をもってもらえればと思い、クロモジのにおいやツバキの葉っぱ、ナツツバキの幹の手触り、クワガタの動きや感触など、五感を使って自然とふれ合えるようにしてきた。こざるの森やリスの散歩道でも、遊具や迷路のような木道を使って楽しく遊ぶ姿が見られる。反面、トントンの森では、決まったコースを歩くので、子供たちにとっては、遊びの要素がほとんどなく「自由に」「創造的に」活動する場や時間はあまりない。また、こざるの森やリスの散歩道でも、遊び方やルールが決まっており、自然の中での遊びではあるが、自然とのつながりはあまり感じられない。

新たに拓かれたハートントンの森では、子供たちは、木立の中で、自分で何をするか考え、遊びを選ぶ活動ができる。木登り、栗拾い、木の枝や落ち葉を使った遊びなど、自然を見てふれて自由に働きかけることなど、自然の中で生き生きと遊ぶ姿を見ることが出来る。また、友達の遊ぶ姿を見て「自分でもやってみよう」「自分ならこんなこともできる」と自然に興味をもち、一人一人工夫し「自由に」「創造的に」活動する場面が見られる。このことが気付きや学びのもととなるよう願っている。

トントンの森で自然の不思議や面白さを感じ、ハートントンの森で遊ぶ楽しさを感じてもらえるよう、これからも指導・援助を行いたい。

◇「WA! んぱくキッズの森もりキャンプ 秋」について

委員 本田 敏也 先生 富山県退職校長会 (元富山市小学校長会長)

私たちが「自然」に働きかければ、「自然」は何かを必ず返してくれる。大自然に恵まれた立山青少年自然の家は、そこにいてだけで学びがあると言える。その環境を生かし、意図的・計画的に自然体験活動を組み込むことにより、子供たちの自然に対する興味関心を高め、感性を育もうとする本研究は、環境教育という視点からもたいへん重要な意味をもつ。

小学校低学年では、生活科の学習において学校の近くの公園等で集めた植物や木の実を使って飾りを作ったり遊びを考えたりする授業が行われている。都市部の学校でも、ススキやドングリ、アメリカセンダングサ等のおもしろい植物があり、子供たちは限られた時間の中で秋の自然を楽しんでいる。立山青少年自然の家周辺の森は、匂いを含めて五感を通して自然と関わることができる。ふわふわの落ち葉の絨毯に寝ころんだり、落ちていた実や葉っぱを何かに見立てて遊んだりと楽しい遊びがどんどん生まれてくる魅力的な場所である。実際の子供たちの活動の様子からも伺うことができる。

また、本事業では、指導者の子供とのかかわり方についても検証を行っている。指導者が近くにいないでも子供たちは友達やものとかかわりながら遊びを十分に楽しむことができるであろう。しかし、周りに見守ってくれる大人がいたり、やっていることや見つけたことを認めてくれる指導者がいたりすることで、自信をもったり遊びをより深いものにしたりとできる。子供たちの内面から発せられる声や感情をとらえ、子供たちに返すことも大きな手立てである。

立山青少年自然の家で十分に自然とふれ合い、工夫して遊んだ経験は、学校に戻った後も生活に生かされるであろう。本事業を通して、子供たちが自分の周りの環境に合った活動を考えたり、四季の変化を肌で感じたり、自然の大切さに気付いたりすることができたのではないかと考える。



「WA! んぱくキッズの森もりキャンプ 秋!」 見つけた秋で何したい? 【R5 10/29~30 実施】

## VI 研究のあゆみ

### 【令和3年度のあゆみ】

- ・ 6月11日(金) トントンまなびたいⅠ「初夏の森歩き」 高原保育園の活動観察  
6月 インタビューのまとめ&観察対象児記録作成  
※ トントンまなびたいⅠ「初夏の森歩き」について
- ・ 7月 8日(木) トントンまなびたいⅡ「(登山・) 沢歩き」 高原保育園の活動観察
- ・ 7月 9日(金) 第1回専門部会(10:00~11:00)・金沢大学附属幼稚園の活動視察
- ・ 7月14日(水) 所内委員会(視点・研究方法・今後の計画の見直し)
- ・ 8月 インタビューのまとめ&観察対象児記録作成  
※ トントンまなびたいⅡ「(登山・) 沢歩き」について  
R4年度用「トントンたんけんたい事前アンケート」作成  
※ 事前調査(実態・ねらい等を聞き取る用紙を作成)
- ・ 9月 トントンの森指導スタンダード(秋)作成
- ・ 10月 トントンまなびたいⅢ「秋の森歩き」事前調査  
トントンまなびたいⅠ「初夏の森歩き」・トントンまなびたいⅡ「(登山・) 沢歩き」の楽しかった度調査 ※ 高原保育園訪問
- ・ 11月 2日(火) トントンまなびたいⅢ「秋の森歩き」 高原保育園の活動観察
- ・ 11月 インタビューのまとめ&観察対象児記録作成  
※ トントンまなびたいⅢ「秋の森歩き」について
- ・ 11月26日(金) 所内委員会(「トントンまなびたいⅢ「秋の森歩き」の成果と課題検討)
- ・ 12月 9日(木) 第2回専門部会  
担当者会(第2回専門部会のまとめ)
- ・ 12月 第2回専門部会のまとめの確認(確認者:委員長・滝口先生)  
トントンの森指導スタンダード(冬)作成
- ・ 1月12日(水) トントンまなびたいⅣ「冬の森歩き・雪遊び」事前調査
- ・ 1月24日(月) トントンまなびたいⅣ「冬の森歩き・雪遊び」 高原保育園の活動観察
- ・ 2月 インタビューのまとめ&観察対象児記録作成  
※ トントンまなびたいⅣ「冬の森歩き・雪遊び」について
- ・ 2月22日(火) 所内委員会(「トントンまなびたいⅣ「冬の森歩き・雪遊び」の成果と課題検討)
- ・ 3月 第3回専門部会(書面協議)  
担当者会(第3回専門部会のまとめ)  
所内委員会(第3回専門部会のまとめ、次年度の課題検討)

・トントンまなびたいⅠ「初夏の森歩き」・トントンまなびたいⅡ「(登山・)沢歩き」について

- ①指導スタンダードを作成して、既存のトントンたんけん隊の内容をブラッシュアップ
- ②観察対象児3名の活動の様子を動画撮影し、「頑張ったこと」の場面を抽出する。
- ③全ての子供に活動後に「頑張ったこと」についてインタビューする。

指導スタンダード (例) ※トントンの森 春夏バージョン

トントンまなびたい 指導スタンダード トントンの森 春夏バージョン

1. 趣旨

2. 目標

3. 観察ポイント

4. 指導ポイント

5. 評価ポイント

6. 留意事項

トントンの森 春夏バージョンのマップは、自然豊かな森の中を冒険するコースを示しています。スタート地点には「トントンの森」の看板があり、コースはAからEまで続きます。各ポイントには観察ポイントや指導ポイントが記載されています。また、マップには「はじめての森」や「バリエーション」などの情報が含まれています。

「頑張ったこと」の場面抽出 (例)

観察対象児: R 児

T: 指導者 R: 観察対象児 C: 観察対象児以外の子供

時刻	場所	指導者・子供の発言	【観察対象児の様子】 (その他の様子)	考察
11:22	②	T: ちよっとここ危ない場所だから持っでね、先生、前の方お願い致します。ここはコースで一番滑りやすい場所です。茶色や黄土色の所に滑ると滑りますので、ロープにつかまってゆっくりおろすか階段の部分をおろすかどちらかです。(ゆっくり階段をおろしながら説明を続ける) この場所は滑ります。つるんとなるよ。 T: こっちでもいいよ。(ロープを指さしながら、階段をおろ続ける。) R: こっちでもいいよ。 【とロープを指さし、指導者の声を後方の友達にやさしく伝達しながら階段をおろしたが、滑って転倒する。】 本当になつると【本当に滑るといふ思い】 あ、これもうじゃない。 【滑る部分をかかめる】 【指導者が少し前に進むが R 児は滑る部分をかかめていて気付かない。気付いた後、少し速足で指導者を追い抜ける。その際に R 児の足を置いた後でついでに、転倒する。】 R: 木がはいて、転んでしまった。 T: ちゃんど、手つづりよか(手をついでしょ)、上手だったぞ。 R: うん。 【その後 R 児は、滑りそうな部分をよく探して、ゆっくりと歩くようになる。】 T: 先生、ここ、急な岩場なので、おしりついてよいかからゆっくりおろしてください。みんなに伝えてください。 R: ねえ、みんな、おしりついてもいいけど、ゆっくりおろしてね。 T: 気を付けてね。 R: 気を付けてね、この石も危ないよ。 C1: 石よけてね。	2度の転倒体験をきっかけに、R 児は、自分の安全への認識を変化させた。それと同時に、指導者が R 児の動きのよさを認めたことで、安全に行動しようという意識を高めたと思われる。	

観察対象児: H 児

T: 指導者 H: 観察対象児 C: 観察対象児以外の

時刻	場所	指導者・子供の発言	【観察対象児の様子】 (その他の様子)	考察
10:35	②	T: 木登りできるって。 H: 木登りしたい【順番に木登りの列に並ぶ】 【自分の番が来たら木登りを始める。】 T: 木を揺らしてみよう。 H: 【C2と一緒に木を揺らして楽しむ。】 T: そこから後ろにジャンプしておろれる？ H: 【一瞬後ろを確認して不安そうな顔をするが、すぐに前を向いてゆらして遊ぶ。】 C2: (前にジャンプしておろす) T: おお、上手。 H: 【低くなって、高さを確認した後、C2を、まねして笑顔で降りる。】	好奇心旺盛で何にでも挑戦したいが、不安な部分も押さ合わせている。	
11:00	②~③	C3: (道の途中で転倒する。) H: 大丈夫。 【手を差し出しながらC3を気づかう。】 C4: ここに坂あるから気を付けてね。(前を歩いている幼児が教えてくれる。) T: 後ろに伝えてあげて。 H: 坂道あるから気を付けてね。 【後ろを向きながら。】	友達が先にお手本を示したことで、自分も安心して木から降りることができた。	
11:10	④	T: すずたけあったよ。(スタックを B 児に渡す) H: すずたけあったよ。【スタックをもらって、後ろに渡す。】 T: 先生これスタック？ H: そうそう。そうだよ。 H: びよーん。【と音でスタックをさわる】 H: これがスタックだよ。(C2 児へ教えてあげる) C5: (同じように触る) ~中略~ C5: (長いスタックを見付ける) H: ちよたけだよ。【C5からもらえない】 H: 【自分で見付ける】 H: どっちがながいかな？ 【と C5 のスタックと比べる】 【そのまましばらく持ったまま歩く。】 H: スタックもって見付けたい。	自然物の中で、特にスタックに興味を示した。事後インタビューでは、今回はスタックをたくさん探りたいと答えるなど、スタックの長さからくる面白さを通して、自然への興味を高めたと思われる。	

最終、積極的に活動に参加する姿が見られた。特徴的な姿を以下に示す。

- ・植物、昆虫等、様々なものに興味をもって平にこつて確認したり、指導員に尋ねたりする。
- ・指導してもらった内容、見付けたもの、危ない場所について、後続の子供たちに自ら進んで声をかける。
- ・担任に自分の喜びや発見を素直に伝えようとする。
- ・指導員の話の中でも、自分の興味があるものが他にあれば、そのものに夢中になる。
- ・友達や先生を助ますよきがある。R 児の声が広がり、多くの子供がみんなを応援するようになる。ムードメーカー

最初から最後まで大きな声で伝言することができていた。森の中では、両手を吐かずとどんどん積極的に進んでいた。H 児は好奇心旺盛で、自分が思ったことを口に出して話すことができる。友達とも仲良くすることができる。友達を気づかうことができる優しい子供であると感じた。

# トントンまなびたい 研究経過（第1回専門部会以降）

## 第1回専門部会のまとめ

- (1) 研究の視点を分かりやすくするとよい。
- (2) インタビューは有用性と困難さがある。「頑張ったこと＝楽しかったこと」として考えてよい。
- (3) 比較対照園を設定してはどうか。
- (4) 指導者から多くを与えず、子供たちの興味や利用団体のねらいに応じた指導を展開するとよい。
- (5) 子供たちに心から楽しかったという体験をさせてあげることが将来的に理科につながる。
- (6) 保育士が自然のよさを知ると子供につながる。
- (7) トントンたんけんたいの普及啓発が大切である。



<所内委員会での検討（7月14日）>

◇ 「頑張ったこと＝楽しかったこと」…専門部会のまとめ（2）より

- ・ 「楽しかった度（楽しい・普通・楽しくない）」調査の追加実施を決定  
※ 効果測定の新尺度、比較対照するデータとして利用



- ・ 「楽しかった度」調査用紙作成 ※ 補助資料1(P23)
- ・ トントンまなびたいⅠ「初夏の森歩き」と、トントンまなびたいⅡ「(登山・) 沢歩き」の「楽しかった度」を訪問し調査 ※ 動画で活動を想起した後、インタビュー実施（10月）

◇ 子供たちの興味や利用団体のねらいに応じた指導を展開するとよい。…専門部会のまとめ（4）より

- ・ トントンまなびたいⅡ「(登山・) 沢歩き」の指導内容の検証

ビデオ（観察対象児）	インタビュー（全園児）
<p>事前に園の先生や指導員が指導したもの（サワガニ等）をひたすら探す姿が見られた。</p> <p>※ 「トントンたんけんたい」…始めの会で写真約20枚を提示（自然・生物・地形・安全指導等） 「指導員が多く与えすぎている現状」</p>	<p>沢歩きについて頑張ったこと・楽しかったことをインタビューし分析した結果、「登山」の内容も答える子供が3割程度いた。</p> <p>※ 研究対象の「沢歩き」の前に大丸山登山【所要時間：1時間程度】を実施</p>
↓	↓
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園の先生に子供たちの興味や指導のねらいを確認し、それに応じたコースを提供</li> <li>※ 補助資料2(P24)…R4年度用「トントンたんけんたい事前アンケート」</li> <li>・ 与えすぎない指導の研究</li> </ul>	<p>「壁（つらさや困難）を乗り越える経験＝頑張ったこと」と捉えているのではないか。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>過度でない壁（つらさや困難）を乗り越える体験をしてはどうか</p>

+

<園での姿>

「立山青少年自然の家の自然の中でたくさん遊んで声をかけ合ったことも、9月の運動会で「大きな声」を出し、元気に動く子供たちの積極的な姿につながった。」



トントンまなびたいⅢ「秋の森歩き」では、トントンの森の「出口スタート・登りコース」ならば、さらに「協力」、「挑戦」、「積極的」に活動する力を育てることができるのではないか。

◇ トントンまなびたいⅢ「秋の森歩き」の成果と課題

園のねらい

- ・子供たちの興味があるものを班で自由に見付けさせたい。
- ・友達と協力しながら、登りコースに挑戦してほしい。

主体的に自然や友達とかかわる姿

実施内容

トントンの森「出口スタート・登りコース」

- ・事前説明は少なく
  - ・分かれ道では子供たちが相談してコースを選択する
  - ・大人はなるべく補助しない
  - ・4班編成（一班8名）＋先生1名＋所員1名
- ※所員は、先頭で離れてビデオ撮影

【成果】

- ・個人でいろいろな形や大きさの葉っぱ・キノコを見付けて喜んだり、落ち葉のシャワーをみんなで楽しんだりするなど、子供たちの興味のある場所で、自由に時間を費やすことができた。
- ・園のねらいに応じて活動を設定することができた。
- ・分かれ道でどちらに進むか決める場面では、子供たちの自然なかかわりや話し合いの中で合意形成が図られた。
- ・年長児がトントンの森でグループ活動をする際の時間配分が分かった。

【課題】

- ・承認欲求が強い年長児だからこそ、少人数のグループで活動することで、より子供たち一人一人の思いに沿った活動が展開できたのではないかな。
- ・分かれ道での話し合いのルールを決め、効率よく探検できるようにしてもよかったかな。
- ・もう少し時間がたっぷりとれるとよかったかな。
- ・ねらいを1つに絞って活動する必要があるかな。



トントンまなびたいⅠ「初夏の森歩き」



トントンまなびたいⅡ「(登山・) 沢歩き」



GALLERY



# トントンまなびたい 研究経過（第2回専門部会以降）

## 第2回専門部会のまとめ

※ 滝口教授の指導をもとに策定

- (1) 園のねらいや子どもたちの興味関心に即した活動を展開する必要がある。
- (2) 自然にどっぷりとひたる活動が大切である。幼児期は、言葉よりも体験を通して学ぶことが適している時期であり、体験を通して獲得した認識は、その後の言葉を用いての学習を支えるだろう。
- (3) テーマを絞り込み研究を展開することも有意義である。(例：命)
- (4) まず、保育者自身が環境を知る、その上で子どもたちの自由な活動を保障する、保育者の感動を伝える・幼児の発見を認める言葉かけをすることが大切。
- (5) 幼児を対象とする学習の評価は難しい。評価対象や評価項目を限定すると、実際の子どもの学びや気付きを見過ごすことにつながり、真の子どもの学びを適正に評価することができない。  
→ 幼児の教育は方向目標が設定されており、指導直後の評価は適していない。幼児期の学びが将来花開くことを信じて待つのも大人の役割。



### ◇ 「園のねらいや子どもたちの興味関心に即した活動を展開」…専門部会のまとめ（1）より

- ・ トントンまなびたいⅣ「冬の森歩き・雪遊び」に向けて事前調査（高原保育園）

#### 活動のねらい

- ① 園で雪遊びをたくさんしている。園とは違う環境（立山青少年自然の家）の中で子供たちがどんな動きをするかを見てみたい。子供も保育士（高原保育園）も立山青少年自然の家の冬のプログラムは初めて経験する。立山青少年自然の家の基本的な指導の中で子供たちの様子を参考に、今後の園での指導に生かしたい。
- ② 春、夏、秋と探検したトントンの森の季節の変化や新たな発見を楽しむ。

### ◇ 「自然にどっぷりとひたる活動が大切である…」…専門部会のまとめ（2）より

- ・ 「トントンたんけんたい」冬の活動の基本的なプログラム

	活動内容	主なメニュー		
午前	トントンの森探検 ※ 研究対象	・新雪を味わう ・しり滑り	・雪のシャワー ・坂登り	・動物の痕跡探し（足跡・糞） ・冬芽さがし
午後	チューブそり滑り	・1人で ・寝転んで	・2人で ・座って	・そりをつないで3名以上で ・回転しながら ・後ろ向きで



- ・ 事前説明は少なく、なるべく活動の一つ一つの時間を確保する。
- ・ 指導スタンダード（冬バージョン）の作成【活動エリア・内容の精選】 ※別紙参照

### ◇ 「テーマを絞り込み研究を展開することも有意義である。(例：命)」…専門部会のまとめ（3）より

- ・ 「冬の自然の中で見ることができる命を紹介する」



- ・ 動物の痕跡（足跡・糞）探し … ウサギ・キツネ・タヌキ・リス・カモシカ等
- ・ 春を待ちわびる小さな芽の観察（冬芽探し） … オオカメノキ・ホオノキ・クロモジ等
- ・ 雪の下で生きている植物 … チシマザサ・ツバキ・モミジ等

### ◇ 「幼児の発見を認める言葉かけをすることが大切」…専門部会のまとめ（4）より

- ・ 「指導スタンダードに言葉かけの例を記載する」



- ・ 子供は発見・感動・不思議の王様 ・ 大人は子供の共感王になろう ※スタンダード参照

## ◇ トントンまなびたいⅣ「冬の森歩き・雪遊び」の成果と課題

### 実施内容

前ページに記載した基本的なプログラムを実施。大雪のため、午後のチューブそりは未実施。

#### 【成果】

- ・「プログラム一つ一つの時間を確保する」というねらいに応じてプログラムを実施した。時間をかけてゆっくり探検したことで、子供たちは四季の違いに気付き、生命の息吹を感じることができた。
- ・指導スタンダード作成を通じ、冬の森の体験をフィールドごとに整理したり、冬の森に応じた言葉かけを例示したりすることができた。

#### 【課題】

- ・保育士に事前踏査をしていただき、活動に寄り添った声かけをしてもらうとよかった。

## トントンまなびたい 研究のまとめ（令和3年度）

#### 【成果】

- ・高原保育園の4回の活動の「楽しかった度」が回を追うごとに高い数値になった。四季に応じた4回の活動を継続して実施したことにより、自然への興味関心を高め、「感性を養うことができた」と考える。
- ・トントンまなびたいの活動指導と指導スタンダードの作成・資料配付を通して、本施設の研修支援事業「立少トントンたんけんたい」の活動をブラッシュアップすることができた。
- ・R4年度用「トントンたんけんたい事前アンケート」を作成し、来年度利用予定の保育園・幼稚園・こども園等に配付したことで、園のねらいに応じた活動を提供することが可能となった。
- ・各季節に応じた指導スタンダードを作成し、本施設の指導員が活用したことで、指導のスキルアップにつながった。また、来年度「トントンたんけんたい」で利用する団体に、利用する季節に応じた指導スタンダードを配付し、保育者自身が環境を知る、その上で子どもたちの自由な活動を保障する、保育者の感動を伝える、幼児の発見を認める言葉かけをするためのきっかけをつくることができた。

#### 【課題】

- ・「楽しかった度」は回を追うごとに高くなったが、環境を大切に思う心を育むことができたかを数値等で検証することは難しかった。テーマを絞り込み研究を展開したり、幼児期の特性を考慮して長期的な見通しをもった評価方法を取り入れたりする必要がある。
- ・指導スタンダードを作成し、本施設の指導員のスキルアップや保育士の自然体験活動への興味関心を高めるきっかけづくりはできたが、広く指導スタンダードを広めることができなかった。合同事前打ち合わせ、ホームページへの掲載、各種事業での指導スタンダードの配付を通して、幼児だけでなく、小学生以上の利用団体、家族利用者等にも様々な場面でトントンの森のよさを広め、自然体験活動の楽しさと環境教育の大切さを理解できるようにする必要がある。
- ・今年度の学びを生かし、次年度以降の小学生の体系的な環境教育につなげる必要がある。

# 「トントンまなびたい」 指導スタンダード 「トントンの森 春夏バージョン」

## 1 ねらい

- ・自分の力で最後まで頑張る。 ・友達と仲良く活動する。 ・ドロドロ、ビシャビシャになって遊ぶ。
- ・自然の中で擬音語を見付ける。「つるつる・ざらざら・つやつや・ぎざぎざ・ぴかぴか・ふわふわ・すべすべ・ちくちく等」
- ・五感を生かして、おもしろい、きれい、ふしぎをたくさん見付ける。

## 2 展開

※場所(森に表示された看板付近)ごとに分類

配時	○数字…子供の活動(予想される子供の姿) ●追加指導事項	・指導者の支援 ◇安全配慮事項
5分	<b>1 トントンを知る。トントンの森の特徴的な木を知る。 学ぶゾーン</b> ① キツツキのドラミングのスピードのクイズ(3択)に答える。 正解「手でたたけないぐらい速い」 ② カメの木を知る。→葉はカメの甲羅の形・冬芽はウサギの耳の形 ③ ホオの木を知る。→森で一番大きな葉にびっくり「ホオー！」 ● 木のシャワーの気持ちよさを感じる。→葉についた雨粒を浴びる ● 空を見上げ、葉と葉の間から見える青空の美しさを感じる。	・ ドラミングの速さを手で表現する。ミュージックプレーヤーで実際の音を聞く。 ・ ウサギとカメの童話を思い起こす。 ・ 葉の大きさと顔の大きさを比べる。 ◇ 森での配慮事項を再確認する。 「走らない、害虫に気を付ける、帽子・長袖着用等」
10分	<b>2 木や葉っぱでおもいっきり遊ぶ。 遊ぶ・感じるゾーン</b> ① 木にぶら下がる、登る、滑る。【ユキツバキの森・猿滑りの木】 ② 葉の血管(葉脈)を透かして見る。葉の笛や鉄砲で遊ぶ。 ● ありの行列を見る。【1番看板と2番看板の間】 ● 「ヤッホッ」と叫ぶ。【2番看板付近・来拝山に向かって】	・ なりきり遊び(動物や物語の主人公) ・ 無駄に採取しない。命を感じる。 ◇ 子供に寄り添い、木からの落下を防止する。
10分	<b>3 急な下り坂や上り坂を歩く。 挑戦ゾーン</b> ① 低い姿勢で、手や尻をつきながら、ゆっくり下る。 ② 草や木につかまりながら、急な坂道を上る。 ● チシマザサを知る。→葉は、ますのすしに使用。ススタゲ採取。	・ 「自然に助けてもらおう！」 ◇ 事前(始めの会)で、前後への転び方(頭を守る)を練習する。
5分	<b>4 木のよい匂いを感じる。木の強さを感じる。 遊ぶ・感じるゾーン</b> ① クロモジの木のおいを感じる。→茶道の際の爪楊枝で使用。 ② コシアブラの木のおいを感じる。→山菜・天ぷらが美味しい。 ③ 杉の木と相撲をとる。【杉の森広場】 ● 杉の森で遊ぶ。→木に抱き着く。かくれんぼ。 ● 自分の行きたいコースを選択して進む。【4番看板】 ● 杉の木の高さを感じる。→森の中が暗い。	・ 枝の採取した部分が匂いが強い。 ・ 生活で使用されていることを伝える。 ・ 子供全員で杉の木を押し倒してみる。 ◇ 落下した枝の跳ね返りに注意。 ◇ どちらに進んでも合流する。
5分	<b>5 危険な道(丸太・粘土質の道・急な下り坂)を歩く。 挑戦ゾーン</b> ① 丸太の上を落ちないように気を付けて渡る。 ② 粘土質の道を尻で滑ったり、ゆっくり歩いたりする。 ③ 低い姿勢で、手や尻をつきながら、ゆっくり下る。 ● キツツキの穴を見付ける。【5番看板付近】 ● 自分の行きたいコースを選択して進む。【4番看板】	・ 「落ちると熊に食べられるよ！」 ・ 汚れても挑戦するよさを認める。 ◇ 周囲に石があるので、ゆっくり歩く。
10分	<b>6 森で一番の難所を超える。 挑戦・応援ゾーン</b> ① 木の根っこプールを乗り越える。→水の中に入る。ふちを歩く。 ② 右側が崖の道を、崖に落ちないように通る。 ③ 難所を乗り越えようと頑張る友達を応援する。【応援の坂】 ● 大きなクリの木を知る。	・ 汚れても挑戦するよさを認める。 ◇ 崖に落ちないように、左側を歩く。 ◇ 終了した子供の安全管理も大切。 ・ 「大きくてびっくり！」
5分	<b>7 みんなでゴールの喜びを分かち合う。 喜びゾーン</b> ① 7番看板を見つけ、ゴールが近いことをみんなに知らせる。 ② ゴールした喜びを、叫んで表現したり、ハイタッチで共有したりする。	・ 子供どうしの声かけを大切にする。 ・ 子供の頑張りを大いに認める。

# トントンの森 指導スタンダードマップ



## はじめの会

### ◇トントンの森の紹介

- ・四季の話
- ・目印看板を紹介（写真を見せながら）

### ◇がんばること

- ・自分の力で最後までがんばる（泣いてもいい）
- ・仲間と仲良く遊ぶ
- ・ドロドロになったり、ビシャビシャになったりして遊ぶ

### ◇約束

- ・指導者の前には行かない
- ・学びを後ろのお友達に伝えよう

### ◇セーフティトーク

- ・転び方の実践（前・後ろ）⇒『頭』を守る
- ・坂道では手を使うこと
- ・下り坂ではお尻を付いておることを伝える
- ・ハチ等の害虫について（時期によっては伝える）
- ・服装・靴の確認

## バリエーション

指導スタンダード以外にも、いろいろなバリエーションが！  
何度も何度も「トントンの森を楽しもう」！

- ◇生き物をさがす
- ◇葉っぱをさがす
- ◇キノコをさがす
- ◇実をさがす
- ◇色をさがす
- ◇みんなで探検
- ◇グループで探検
- ◇ペアで探検
- ◇1人で探検

◇夜に探検  
新しい発見がいっぱい！

## 振り返り

どんな発見をしたかな？ どんな思いになったかな？

- ・見つけたことをたくさん話そう。
- ・今はどんな気持ちかな。
- ・約束は守れたかな。
- ・自分ががんばったこと、お友達と一緒にがんばったことをお互いに褒めあおう。
- ・自然に遊んでもらえたこと、連れて来てくれた先生、一緒に楽しく遊んだ仲間に「ありがとう」
- ・また来てね

## 子供は「発見の王様」

◇見つけたことをその場で具体的にほめてあげよう！

指導者「広い森の中で、小さなアリの行列をよく見つけたね」

## 子供は「感動の王様」※感動=強い印象を受けて深く心を動かすこと

◇子供が感動したことを共感しよう！ 身近な物に置き換えても！

子供「この葉っぱの形がとてもおもしろいな」

指導者「本当だ、おもしろいな。〇〇みたいだね」

## 子供は「不思議の王様」

◇子供の疑問を大切にしよう！

→ 年齢や理解力にあわせて言葉で、内容を伝えよう！

子供「どうして葉っぱが落ちるのかな？」

指導者「冬になると寒くてみんなと一緒に元気がなくなるね」

→ 時にはアニミズムで伝えよう！

子供「どうしてこんなにきれいな花が咲くのかな？」

指導者「花の妖精が、かわいいみんなを待っていたんだよ」

「大人は子供の共感王」になろう！



# 「トントンまなびたい」指導スタンダード 「トントンの森 秋バージョン」



## 1 ねらい

- ・自分の力で最後まで頑張る。 ・友達と仲良く活動する。 ・ドロドロ、グチャグチャになって遊ぶ。
- ・自然の中で擬音語を見付ける。「カサカサ・くるくる・ふわふわ・ざらざら・つやつや・ぎざぎざ・すべすべ・ちくちく等」
- ・五感を生かして、おもしろい、きれい、ふしぎをたくさん見付ける。

## 2 展開

※場所(森に表示された看板付近)ごとに分類

時間	○数字…子供の活動(予想される子供の姿) ●追加指導事項	・指導者の支援 ◇安全配慮事項
5分	<b>1 トントンを知る。トントンの森の特徴的な木を知る。 学ぶゾーン</b> ① キツツキのドラミングのスピードのクイズ(3択)に答える。 正解「手でたたけないぐらい速い」 ② オオカメノキを知る。→葉はカメの甲羅の形 冬芽はウサギの耳の形(11月)。かんじきの材料になる。 ③ ホオノキは、大きな赤い実がなる(とげとげ)(10月) ● クリのイガがたくさん落ちている。→猿が食べた跡(10月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドラミングの速さを手で表現する。ミュージックプレーヤーで実際の音を聞く。</li> <li>・ ウサギとカメの童話を思い起こす。</li> <li>・ 葉の大きさと顔の大きさを比べる。</li> <li>◇ 森での配慮事項を再確認する。              「走らない、害虫に気を付ける、帽子・長袖着用等」</li> </ul>
10分	<b>2 木や葉っぱでおもいっきり遊ぶ。 遊ぶ・感じるゾーン</b> ① 木にぶら下がる、登る、滑る。【ユキツバキの森・猿滑りの木】 ② カエデの種のプロペラで遊ぶ。(10月) ③ 葉の血管(葉脈)を透かして見る。葉の笛や鉄砲で遊ぶ。 ● 「ヤッホッ」と叫ぶ。【2番看板付近・来拝山に向かって】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 木からの落下を防止する。</li> <li>・ 無駄に採取しない。命を感じる。</li> <li>・ 身近な植物での遊びを伝えてもよい。              (例) オオバコの相撲等</li> </ul>
10分	<b>3 急な下り坂や上り坂を歩く。 挑戦ゾーン</b> ① 低い姿勢で、手や尻をつきながら、ゆっくり下る。 ② 草や木につかまりながら、急な坂道を上る。 ③ 空を見ながら、モミジのトンネルをくぐる。(10月・11月) ● チシマザサを知る。→葉は、ますのすしに使用。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 事前(始めの会)で、前後への転び方(頭を守る)を練習する。</li> <li>・ 「自然に助けてもらおう！」</li> <li>・ 秋の色探しを行う。森に何色の色があるか数えよう。</li> </ul>
5分	<b>4 木のよい匂いを感じる。木の強さを感じる。 遊ぶ・感じるゾーン</b> ① ヤマモミジの木を揺らす。→紅葉した葉が落ちる。(10月) ② 落ち葉を踏んだ際のカサカサする音を楽しんで歩く。(10月) ③ クロモジの木のにおいを感じる。→茶道の際の爪楊枝で使用。 ● 杉の木と相撲をとる。【杉の森広場】 ● 杉の森で遊ぶ。→木に抱き着く。かくれんぼ。 ● 自分の行きたいコースを選択して進む。【4番看板】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 五感を通して、落ち葉で遊ぶおもしろさを伝える。</li> <li>・ 枝の採取した部分が匂いが強い。</li> <li>・ 生活で使用されていることを伝える。</li> <li>・ 子供全員で杉の木を押し倒してみる。</li> <li>◇ 落下した枝の跳ね返りに注意。</li> <li>◇ どちらに進んでも合流する。</li> </ul>
5分	<b>5 危険な道(丸太・粘土質の道・急な下り坂)を歩く。 挑戦ゾーン</b> ① 丸太の上を落ちないように気を付けて渡る。 ② 粘土質の道を尻で滑ったり、ゆっくり歩いたりする。 ③ 低い姿勢で、手や尻をつきながら、ゆっくり下る。 ● キツツキの穴を見付ける。【5番看板付近】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「落ちると熊に食べられるよ！」</li> <li>・ 汚れても挑戦するよさを認める。</li> <li>◇ 周囲に石があるので、ゆっくり歩く。</li> </ul>
10分	<b>6 森で一番の難所を超える。 挑戦・応援ゾーン</b> ① 木の根っこプールを乗り越える。→水の中に入る。ふちを歩く。 ② 右側が崖の道を、崖に落ちないように通る。 ③ 難所を乗り越えようと頑張る友達を応援する。【応援の坂】 ④ ホオノキの落ち葉に穴を開けて、仮面をつくる。(10月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚れても挑戦するよさを認める。</li> <li>◇ 崖に落ちないように、左側を歩く。</li> <li>◇ 終了した子供の安全管理も大切。</li> </ul>
5分	<b>7 みんなでゴールの喜びを分かち合う。 喜びゾーン</b> ① 7番看板を見つけ、ゴールが近いことをみんなに知らせる。 ② ゴールした喜びを、叫んで表現する、ハイタッチで共有する。 ③ 拾った落ち葉を一斉に空に投げ上げ、落ち葉シャワーを浴びる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供どうしの声かけを大切にする。</li> <li>・ 子供の頑張りを大いに認める。</li> <li>・ 落ちてくる瞬間がシャッターチャンス</li> </ul>



# 「トントンまなびたい」 指導スタンダード 「トントンの森 冬バージョン」

## 1 ねらい

- ・自分の力で最後まで頑張る。 ・友達と仲良く活動する。 ・雪の中でおもいっきり遊ぶ。
- ・自然の中で擬音語を見付ける。「しんしん・ふわふわ・きゅっきゅっ・ぎゅっぎゅっ・さらさら・べとべと・じゃわじゃわ・等」
- ・五感を生かして、おもしろい、きれい、ふしぎをたくさん見付ける。

## 2 展開

※ ① ~ ⑤ は、森に表示された看板付近の活動場所

配時	○数字…子供の活動（予想される子供の姿） ●追加指導事項	・指導者の支援 ◇安全配慮事項
10分	<p><b>1 雪の感触を味わう。 感じるゾーン</b></p> <p>① 足（冷たい雪「きゅっきゅっ」、埋まる「ずぼっ」、など） 手（雪玉をつくらることができる雪、できない雪、など） 体全体（人型づくり、雪布団、雪のシャワー、ハイハイ、など） 顔（顔型づくり） ※これらの活動を通して雪の冷たさや感触を味わう。</p> <p>● ウェアに降る雪の結晶の形を見よう（気温が氷点下の日）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開始前に、服の袖とズボンの裾に雪が入らないかをしっかりと確認する。</li> <li>・ 雪は冷たいので、雪と長い時間触れ合うことを無理強いしない。</li> <li>◇ 吹雪や氷点下等の気象条件の場合は、雪と触れ合う時間を短くする。</li> </ul>
10分	<p><b>2 冬芽を見る。 学ぶ・感じるゾーン</b></p> <p>① <b>ホオノキ</b>（冬芽3cm以上・春に30cm以上の葉が5~8枚） ② <b>クロモジ</b>（丸い花芽と細長い葉芽がセットになっている） ③ <b>ヤマモミジ</b>（冬芽が枝先に2個並ぶ） ④ <b>オオカメノキ</b>（冬芽はウサギの耳の形）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬芽の違いのおもしろさを感じられるよう、観察する際に声をかける。</li> <li>◇ 枝からの雪の落下に気を付ける。</li> <li>◇ 木の幹の周りには、空間がある可能性があるため落下に気を付ける。（根廻雪）</li> </ul>
20分	<p><b>3 急な下り坂を滑る。急な上り坂を上る。 挑戦ゾーン</b></p> <p>① 先頭の人がりしり滑りで滑った道を、みんなで滑って長くする。 ● 滑り方（お尻、寝そべって、スーパーマン、など） ② 上り坂では、手や足を使いながら元気よく上る。 ● 坂道上り競争を楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 木や枝の近くを避けて、安全なコースを設定する。</li> <li>◇ 前の人が終わってから滑り始める。</li> <li>◇ 滑る道と上る道を分けて、ぶつからないようにする。</li> </ul>
10分	<p><b>4 足跡やふんを探す。 学ぶ・感じる</b></p> <p>① 足跡カードをもとに足跡を探す。 ※カードは、子供たちが指導者が持つ。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-start;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>ウサギ</b></p>  </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>キツネ</b></p>  </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>タヌキ</b></p>  </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>リス</b></p>  </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>カモシカ</b></p>  </div> </div> </div> <p>● ウサギのふんを探す。→ 小さくて丸い。紅茶のにおい。 ● カモシカのふんを探す。→ 小さくて丸い。一か所にたくさん。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の見つけた足跡とカードを見比べながら、足跡見付けを楽しむ。</li> </ul> <p><b>ウサギ</b> ちょん（前足）・ちょん（前足）・ぱっ（後ろ足一緒）。Yの字形の足跡が残る。</p> <p><b>キツネ</b> 前足と後ろ足が一直線（前足跡に後ろ足をつけるため）</p> <p><b>タヌキ</b> キツネよりもジグザグ</p> <p><b>リス</b> 前足一緒、後ろ足一緒なので、チョウのような形に見える。大きい方（後ろ足）がチョウの前翅、小さい方（前足）が後ろ翅</p> <p><b>カモシカ</b> 前足・後ろ足とも形・大きさがほぼ同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ふんは、絶対に直接手で触れない。周囲の雪ごとすくって観察する。</li> </ul>
5分	<p><b>5 杉の木をみんなで押して、枝の雪を落とす。 挑戦・感じるゾーン</b></p> <p>① みんなで杉の木の幹を囲み、力強く押す。雪のシャワーを浴びることができたら成功。→簡単に倒れない杉の木の生命力を感じる。</p> <p style="text-align: center; color: blue;">中間道より、不動グレンデ上部に出て、終了</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供同士の声かけを大切にする。</li> <li>・ 子供の頑張りを大いに認める。</li> <li>・ 落ちてくる瞬間がシャッターチャンス</li> </ul>

# トントンの森

## 指導スタンダードマップ



### はじめの会

#### ◇トントンの森の紹介

- ・四季の話 (冬をクローズアップ)
- ・目印看板を紹介 (写真を見せながら)

#### ◇がんばること

- ・自分の力で最後までがんばる (泣いてもいい)
- ・仲間と仲良く遊ぶ
- ・雪の中で体全体を動かして思いっきり遊ぶ

#### ◇約束

- ・指導者の前には行かない
- ・学びを後ろのお友達に伝えよう

#### ◇セーフティトーク

- ・木からの落雪に注意
- ・指導者の見える範囲内で活動する
- ・吹雪等、悪天候の場合は活動時間を短縮、又は中止する。
- ・帽子・手袋・服装・長靴の確認
  - ※ 襟元・袖・腹・足首等より雪が直接体に触れないように。

### バリエーション

指導スタンダード以外にも、いろいろなバリエーションが！  
何度も何度も「トントンの森を楽しもう」！

- |            |          |
|------------|----------|
| ◇生き物をさがす   | ◇みんなで探検  |
| ◇葉っぱをさがす   | ◇グループで探検 |
| ◇足跡やふんをさがす | ◇ペアで探検   |
| ◇雪が作る形をさがす | ◇1人で探検   |
| ◇氷が作る形をさがす |          |

◇夜に探検

新しい発見がいっぱい！

### 振り返り

どんな発見をしたかな？ どんな思いになったかな？

- ・見つけたことをたくさん話そう。
- ・今はどんな気持ちかな。
- ・約束は守れたかな。
- ・自分ががんばったこと、お友達と一緒にがんばったことをお互いに褒めあおう。
- ・自然に遊んでもらえたこと、連れて来てくれた先生、一緒に楽しく遊んだ仲間に「ありがとう」
- ・また来てね

### 子供は「発見の王様」

◇見つけたことをその場で具体的にほめてあげよう！

指導者「いろんな足跡をたくさん見つけたね」

### 子供は「感動の王様」※感動=強い印象を受けて深く心を動かすこと

◇子供が感動したことを共感しよう！ 身近な物に置き換えても！

子供「この冬芽の形がとてもおもしろいな」

指導者「本当だ、おもしろいな。〇〇みたいだね」

### 子供は「不思議の王様」

◇子供の疑問を大切にしよう！

→ 年齢や理解力にあわせて言葉で、内容を伝えよう！

子供「雪って何？」

指導者「冬は寒くて雨が凍って雪になるんだよ」

→ 時にはアニミズムで伝えよう！

子供「どうしてこんなに冬芽の形はおもしろいの？」

指導者「冬芽のかわいい妖精が、みんなとお友達になりたいんだ」

「大人は子供の共感王」になろう！

# 「トントンまなびたい」 指導スタンダード 「沢歩き(前谷沢)バージョン」

## 1 ねらい

- ・自分の力で最後まで頑張る。 ・友達と仲良く活動する。 ・ビシャビシャになって遊ぶ。
- ・自然の中で擬音語を見付ける。「さらさら・そよそよ・つるつる・ぬるぬる・等」
- ・五感を生かして、おもしろい、きれい、ふしぎをたくさん見付ける。

## 2 展開

※場所(森に表示された看板付近)ごとに分類

時間	○数字…子供の活動(予想される子供の姿) ●追加指導事項	・指導者の支援 ◇安全配慮事項
5分	<b>セーフティーク(入水前に)</b> <b>学ぶゾーン</b> ① 沢の歩き方を知る。 →石の上ではなく、なるべく水の中を歩く。	◇沢での配慮事項を再確認する。「走らない、害のある生き物に気を付ける等」 ・水の流れていると藻が生えず滑らないことを伝える。
5分	<b>1 沢について知る。(水が冷たい)</b> <b>感じるゾーン</b> ① 水の流れる音を聞こう。→「どんな音が聞こえるかな？」 ② 沢水の冷たさを感じる。→10秒水につけよう。 (手→尻→腹等) ● ヨシナ(山菜)を知る。→シャキとした歯応え・ぬるぬる食感。	・森とは違う、水の流れる音を感じる。 ・水が冷たいのでできる所まで挑戦する。 ◇心臓に遠い所から少しずつ水に慣れる。
10分	<b>2 岩の滑り台で遊ぶ。生き物を探す。</b> <b>遊ぶ・発見ゾーン</b> ① 岩の滑り台で遊ぶ。 ② 岩の滑り台の下の大きな隠れ家にいる、大きなイワナを探す。 ③ 石の下にいるサンショウウオを探す。 ● 石の下にいるイサゴ虫(トビケラの幼虫)を探す。 ※砂や石でミノムシのような巣をつくる ● カエルを探す【ヒキガエル・ツチガエル】	・生き物は最後に水に返す。命を感じる。 ・藻が生えている部分が滑りやすい。 ◇転倒する子供用に指導者が下で待機。 ・サンショウウオ・イサゴ虫はきれいな水を好む。水が少なく、流れが遅い場所の石の下を探す。 ・有毒なものは、触ったら水で手を洗う。
10分	<b>3 水に浸かって遊ぶ。笹船で遊ぶ。</b> <b>遊ぶゾーン</b> ① お風呂(大きなよども)、ウォーターベッド(岩の上のよども)で水に浸かって遊ぶ。 ② 木をまたいだり、くぐったりしながら進む。 ● チシマザサを使用して笹船を作り、流して遊ぶ。 ● 水遊び体験のみの場合は、3番で引き返す。	・お風呂は数名で入浴可能、ウォーターベッドでは頭も水につけてみる。 ◇転倒したり、頭部をぶつけたりすることがないよう、ゆっくり進む。 ◇下りは危険なので、ゆっくり歩く。
5分	<b>4 クリの木の根っこを観察後、パチリ。</b> <b>学ぶ・思い出ゾーン</b> ① クリの木の根っこを観察し、土の中での根っこの生え方を学ぶ。 ② クリの木の根っこに並び、みんなで記念撮影。 ● 大きなよどもにいるイワナを探す	・根っこの周囲の土は水で流された。 ◇根っこの部分は、滑りやすい。 ・よどみの奥をよく観察する。
10分	<b>5 お絵かき体験をする。</b> <b>芸術ゾーン</b> ① 粘土質の石で、黒い岩にお絵かきをする。 ● 前後で時間差がある場合に調整する場所。お絵かきをしたり、サンショウウオを探したりする。	・石が鉛筆、水は消しゴム(水で絵を消すことができる)になる。 ◇分かれ道に気を付ける。
5分	<b>6 沢で一番の難所を超える。</b> <b>挑戦ゾーン</b> ① 狭く、急な坂を上る。 ② 木のトンネルをくぐる。 ● 左手の「立山地獄(水がしみ出た赤い岩)」を見る。	◇疲れがたまる時間帯。ゆっくり、励まし合いながら進むようにする。
5分	<b>7 みんなでゴールの喜びを分かち合う。</b> <b>喜びゾーン</b> ① 7番看板を見つけ、ゴールが近いことをみんなに知らせる。 ② ゴールした喜びを、叫んで表現したり、ハイタッチで共有したりする。	・子供どうしの声かけを大切にする。 ・子供の頑張りを大いに認める。 ◇道には車が通るので、終了した子供の安全管理を行う。
	<b>帰り道にて</b> <b>学ぶゾーン</b> ● 足跡スタンプで楽しむ。→長靴を抜き(靴下ははいたまま)、道に足跡を付けて楽しむ。 ● 草笛や葉鉄砲で遊ぶ。 ● 「ヤッホ」ポイント。沢向こうの山に向かって叫ぶ。	・車の通行を把握して、子供に伝える。 ・一列になって歩く。

# 沢歩き (前谷)

## 指導スタンダードマップ



### はじめの会

- ◇前谷沢の紹介
  - ・生き物の話
  - ・目印看板を紹介 (写真を見せながら)
- ◇がんばること
  - ・自分の力で最後までがんばる (泣いてもいい)
  - ・仲間と仲良く遊ぶ
  - ・ビシャビシャになって遊ぶ
- ◇約束
  - ・指導者の前には行かない
  - ・学びを後ろのお友達に伝えよう
- ◇セーフティトーク
  - ・転び方の実践 (前・後ろ) ⇒『頭』を守る
  - ・坂道では手を使うこと
  - ・石の上ではなく水中を歩く。
  - ・ハチ・マダニ等の害虫について (なるべく肌を露出しない)
  - ・服装・靴の確認

### バリエーション

指導スタンダード以外にも、いろいろなバリエーションが! 何度も何度も「前谷沢を楽しもう」!

- ◇生き物をさがす
- ◇葉っぱをさがす
- ◇石の形をさがす
- ◇遊び方をさがす
- ◇色をさがす
- ◇みんなで探検
- ◇グループで探検
- ◇ペアで探検
- ◇1人で探検

◇部分を選択して探検 **新しい発見がいっぱい!**

### 振り返り

どんな発見をしたかな? どんな思いになったかな?

- ・見つけたことをたくさん話そう。
- ・今はどんな気持ちかな。
- ・約束は守れたかな。
- ・自分ががんばったこと、お友達と一緒にがんばったことをお互いに褒めあおう。
- ・自然に遊んでもらえたこと、連れて来てくれた先生、一緒に楽しく遊んだ仲間に「ありがとう」
- ・また来てね

### 子供は「発見の王様」

- ◇見つけたことをその場で具体的にほめてあげよう!
- 指導者「多くの石がある中で、サンショウウオをよく見つけたね」

### 子供は「感動の王様」

- ◇子供が感動したことを共感しよう! 身近な物に置き換えても!
- 子供「この木の根っこの形がとてもおもしろいな」
- 指導者「本当だ、おもしろいな。〇〇みたいだね」

### 子供は「不思議の王様」

- ◇子供の疑問を大切にしよう!
- 年齢や理解力にあわせて言葉で、内容を伝えよう!
- 子供「どうしてこんなに水が冷たいのかな?」
- 指導者「山だから雪がとけた冷たい水が流れているんだよ」
- 命の大切さで伝えよう!
- 子供「どうして木の根っこはこんな形をしているのだろう?」
- 指導者「根っこさんたちが、助け合って木を守っているんだよ」

**「大人は子供の共感王」になろう!**

# 国立立山青少年自然の家「立少トントンたんけん隊」 事前アンケート

## 園名

本施設では、お子さん達の実態や園のねらいに応じた指導を心がけ、より自然が大好きな子供たちを育てたいと願っております。そこで、以下のアンケートにお答えください。

※ 指導員による指導を希望する場合のみ、ご提出ください。

◇ 子供の実態（自然、動植物、人間関係、非認知能力等に関すること）

--

◇ 園のねらい（子供の実態をふまえて、「立少トントンたんけん隊」で学んでほしいこと）

--

◇ 園のねらいをふまえて、以下の項目から指導法を選択してください。 ※希望個所に○を付けてください。

### ①入所後の事前指導

	あり	写真を用いて、探検する場所の自然や動植物について興味をもつことができるようにします。
	なし	探検中の子供たちの気づきを大切にできるよう、事前に情報を与えずに実施します。

### ②探検中の指導

	あり①	森や沢の自然や動植物の特徴的な様子について、体験を交えながら指導員が積極的に指導します。
	あり②	一部、森や沢の特徴的な様子を指導しますが、子供の気づきを大切に活動を進めます。子供の気づきに応じて、指導員が指導します。
	なし	道案内、危険な個所を知らせることに重点を置き、先導します。子供たちの体験を大切に、指導員からの説明等は行いません。

### ③探検コース（トントンの森） ※「トントンの森指導スタンダード」を参考にご記入ください。

	ロング	番号通りに進みます。自然や動植物、森の地形の変化等、森全体を楽しむことができます。 【順路】 1→2→3→4→5→6→7 【時間】 約1時間
	ミドル	一部をショートカットして、森全体を楽しむことができます。 【順路】 1→4→5→6→7 【時間】 約45分
	ショート	森の後半の岩場や滑る斜面は通らない、比較的安全で短いコースです。 【順路】 1→4→5→中間道出入口 【時間】 約30分
	中間道スタート	探検経験がある子供におすすめです。行きたい場所を決め、重点的に探検できます。 【順路】 中間道から上下両コース 【時間】 要相談
	出口スタート	普段の探検は下りですが、登りながら探検することで、いつもとは違う発見ができます。 【順路】 要相談 【時間】 要相談

※ 探検時間を短くした分を生かして、「こざるの森」や「リスの散歩道」で遊ぶことも可能です。

### ④探検コース（前谷沢） ※「沢歩き指導スタンダード」を参考にご記入ください。

	全コース	番号通りに進みます。水遊び、水生の生物の観察、粘土質の石でのお絵かきを体験します。 【順路】 1→2→3→4→5→6→7 【時間】 約1時間半
	折り返し	遅めに出発して、水遊び、水生の生物の観察をした後、折り返してスタートに戻ります。 【順路】 1→2→3→2→1 【時間】 約1時間

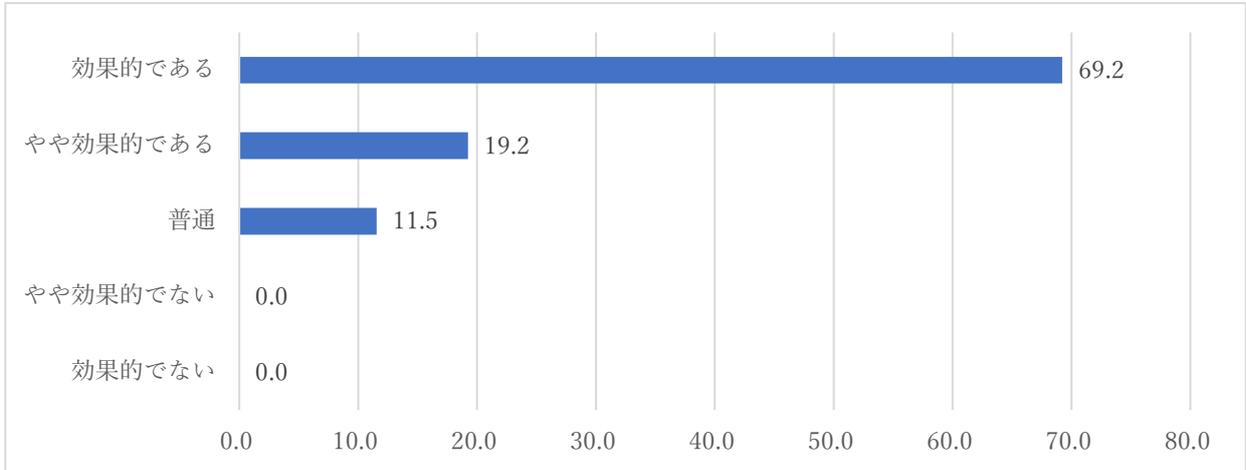
※ 記入された時点と実施日では、お子さんの実態や園のねらいが変更する場合があります。利用計画表を本施設に提出する時点（令和4年3月に通知）で、連絡を取り合いながら、進めていきます。

所内委員会での決定により、「事前指導アンケート」や「指導内容」、「指導スタンダード」等について令和4年度の「トントンたんけん隊」利用団体からアンケートをとることにした。

トントンたんけん隊 アンケート結果のまとめ（令和4年 5～8月） 8/28 現在 総回答数52

◇ 問1「事前指導アンケートをもとにした体験活動について教えてください。」について

①回答の割合（%）



②主な記述

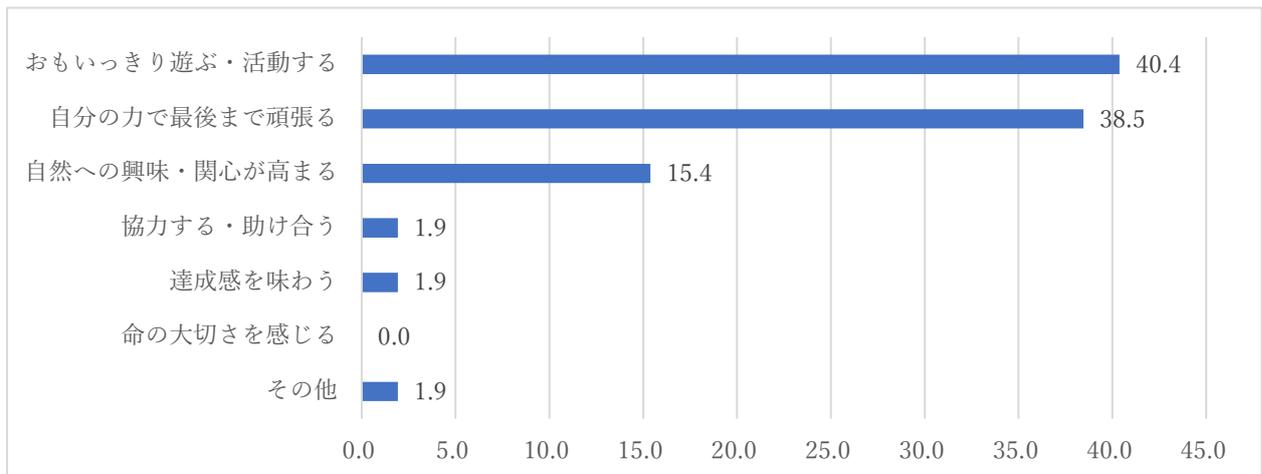
- ・コースや内容等について分かりやすく書かれている。
- ・子供たちの発達段階や体力に応じて、指導法や楽しみ方を選択できるところがよい。
- ・アンケートを通じて園と指導員が事前に共通理解をすることで、園のねらいを踏まえた指導員の声かけや指導が期待できる。
- ・打ち合わせの時間が短縮できる。また、園職員が活動内容を事前に把握でき、当日の活動をスムーズに行うことができる。

<考察>

どの園の回答も、事前指導アンケートに肯定的な内容だった。特に、「ねらいに応じた活動の選択」についての記述が多く見られた。事前指導アンケートは、有効であったと考える。

◇ 問2「今回の体験活動で、1番効果的だったものに○をつけてください。」について

①回答の割合（%）

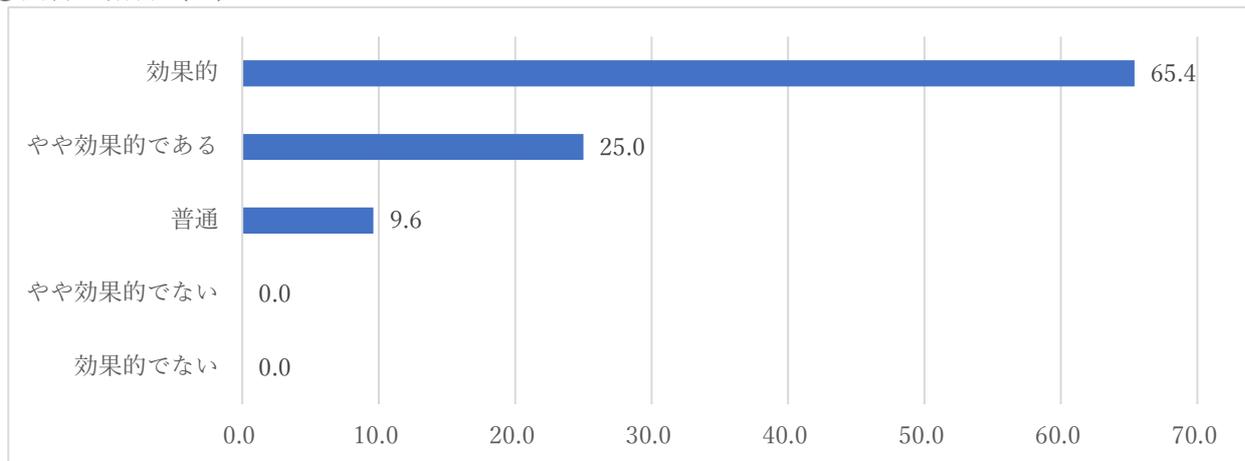


<考察>

「おもいっきり遊ぶ・活動する」「自分の力で最後まで頑張る」という2項目において割合が高かった。森の中でしっかりと遊ばせたいというねらいをもつ園が多かったからと考えられる。

◇ 問3「指導スタンダードの印象について教えてください」について

①回答の割合（%）



②主な記述

<良かった点>

- ・園のねらいに応じたコースを選択する際の参考となった。また、園での事前指導に役立った。
- ・地点ごとに学びの重点や注意事項が書かれ、コースの図解が分かりやすいので、初めて利用する職員、またはあまり施設を利用したことがない職員も見通しをもって引率できる。
- ・引率者が事前に活動内容を把握できるため、子どもたちの声かけや励ましの参考になった。
- ・立少では、ねらいに応じた指導をしているとよく感じる事ができた。
- ・支援が必要な子供がいる場合に、事前に見通しをもって計画を立てることができる。

<改善が必要な点>

- ・指導員無しの場合、指導スタンダードだけでは分からないこと（どれがクロモジか？等）もある。  
⇒ 指導スタンダードに、写真の資料を添付し、視覚を通して確認できるようにする。

<考察>

- ・「効果的である」「やや効果的である」で9割を占めた。指導スタンダードの提供が有効であったと言える。特に、「職員が活動の見通しをもつことができる」という点で、指導スタンダードの有効性を記述する園が多かった。

◇ 問4「その他」

①主な要望と対応案

- ・雷雨で活動ができない場合のプログラムを充実してほしい。  
⇒ 自然や命を感じることができるような標本や自然に関わる書籍や動画等を充実し、雨天でも自然を身近に感じることができるようにする。 ※低学年事業において実施予定
- ・じっくりと生き物を探したり、植物に触れたりするプログラムもあるとよい。  
⇒ 既存の「トントンたんけん隊」プログラムの中で、生き物や植物に特化して時間を設定する新規プログラムを導入する。

## 【令和4年度のあゆみ】

- ・ 5月～8月 トントンたんけん隊事後アンケートの実施
- ・ 6月 9日(木) 第1回専門部会(14:00～15:30)  
※ 研究計画作成・年長児対象事業の内容検討
- ・ 6月23日(木) 所内委員会「ハートントンの森での活動」について  
※ 専門部会の助言を受けて
- ・ 7月 「ハートントンの森」場所選定・森整備
- ・ 8月 「ハートントンの森」整備・「ハートントンの森での活動」進行案検討
- ・ 8月18日(木) ワクワクふわふわ「ハートントンの森での活動(お気に入りの場所づくり)」  
「やんちゃキッズの大冒険 夏(2泊3日)」にて実施年長児対象  
【動画・インタビューでの分析】
- ・ 8月31日(水) 所内委員会「第2回専門部会に向けて」  
第2回専門部会事前活動説明資料発送
- ・ 9月 3日(土) 「清流王国とやまの水守り隊(1泊2日)」 小学校高学年(5・6年生)対象
- ・ 9月28日(水) 第2回専門部会(14:00～15:30)  
※ 年長児対象事業の振り返り・小学校低学年対象事業の内容検討
- ・ 9月28日(水) 所内委員会「第2回専門部会の内容を受けて」
- ・ 10月26日(水) 所内委員会「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ 秋」に向けて
- ・ 10月29日(土) 見つけた秋で何したい? 小学校低学年(1・2年生)対象  
「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ 秋(1泊2日)」にて実施  
【動画・インタビュー・アンケートでの分析】
- ・ 11月21日(月) 所内委員会「第3回専門部会に向けて」
- ・ 12月22日(木) 第3回専門部会(10:00～11:30)  
※ 小学校低学年対象事業の振り返り・小学校中学年対象事業の内容検討  
所内委員会「第3回専門部会の内容を受けて」
- ・ 2月18日(土) 冬の森で生きる 小学校中学年(3・4年生)対象  
「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ 冬(1泊2日)」にて実施  
【動画・アンケートでの分析】
- ・ 3月 6日(月) 所内委員会「第4回専門部会に向けて」
- ・ 3月 中旬 第4回専門部会(書面協議)  
※ 小学校中学年対象事業の振り返り・次年度研究の方向性について

# 研究経過ダイジェスト（第1回専門部会以降）

## 第1回専門部会のまとめ

- (1) 「自然環境との同化」「自然とのつながりの深さ」  
「目的と手段について常に問い直し」
- (2) 「新・立少周辺での環境プログラム系統表」について  
**キーワード**
  - ① 幼児期の体験が土台・幼児期は自然の中で「豊か」「一心不乱」「懸命に」に遊ぶ
  - ② 低学年の生活科では「気付き」が大切
  - ③ 中学年での活動にて「命」の学習
    - ・ 大きくなる成長の感動が理科の見方・考え方につながる
    - ・ 「自分も自然の一部」＝「自分も宝物」
  - ④ 「学び」＝「遊び」 ※幼児も小学生も大人も
- (3) 「生の物」に触れる、本物に触れる体験の必要性
- (4) 「自由遊びのイメージを高める」
- (5) 「自然の中で指導者が投げかける言葉は、幼児が学ぶ出発点」

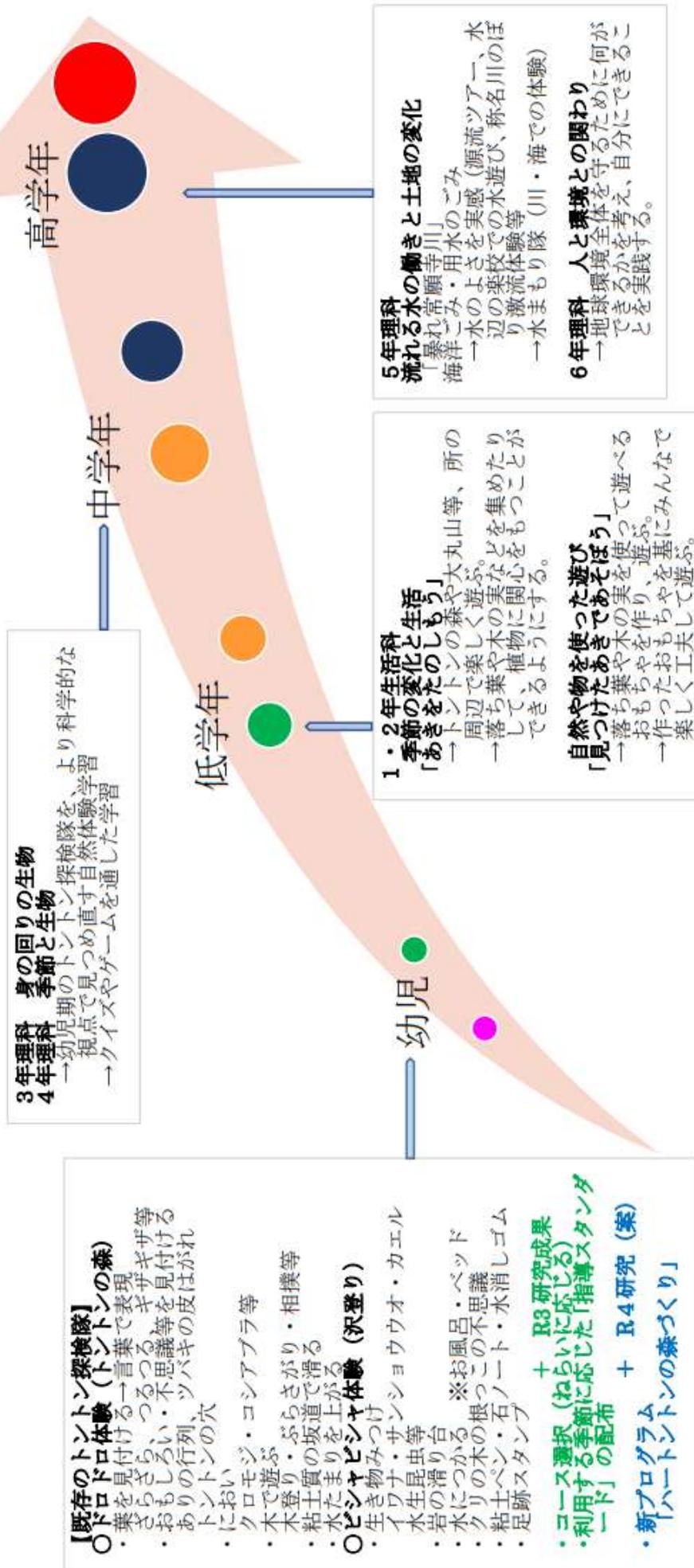


### <所内委員会での検討>

- ◇ 「自然環境との同化」「自然とのつながりの深さ」「目的と手段について常に問い直し」  
…専門部会のまとめ（1）より  
↓  
常に意識して研究を進める
- ◇ 「新・立少周辺での環境プログラム系統表」の見直し…専門部会のまとめ（2）より  
↓  
キーワードをもとにした系統表の見直し …P5
- ◇ 「生の物」に触れる、本物に触れる体験の必要性…専門部会のまとめ（3）より  
↓  
ハートントンの森の選定について …P6
  - ・ 多様な自然を体験できる場所「トントンの森」
  - ・ 開所当初の理念を大切に「外界と離れたクローズな空間」
  - ・ どこでもできる森「ナショナルセンターとして発信」 等
- ◇ 「自由遊びのイメージを高める」…専門部会のまとめ（4）より  
↓  
ハートントンの森での活動の工夫 …P7
  - ・ 自然物のみを使用して「お気に入りの場所づくりを行う」
  - ・ 自分たちの好きなことをする
- ◇ 「自然の中で指導者が投げかける言葉は、幼児が学ぶ出発点」…専門部会のまとめ（5）より  
↓  
進行案の作成 …P8～
  - ・ 活動や指導者の言葉かけを吟味

## ＜新・立少周辺での環境プログラム系統表＞ R4.6.1 パージョン

### 自然にどっぷりとつかるとつかる＝自然環境との同化



学びの形態	幼児	遊ぶ・感じる	低学年	感じる・知る	中学年	知る・学ぶ	高学年	学ぶ・生かす
出会い	手を加えない自然の中で	↓	生活の幅を広げる中で	↓	教科という領域にて	↓	テーマ設定し探求する中で	↓
ふれ合い	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
めざす姿	自然の中で無邪気に遊ぶ姿	+	感じたことを意欲的に表現する姿	+	「理科の見方・考え方」を楽しむ姿	+	自らテーマ設定し主体的に問題解決しようとする実践する姿	+
自然環境との同化	根底には、「自然からの恵みを尊び、自然とのつながりの深さを感じる」ことができる資質							



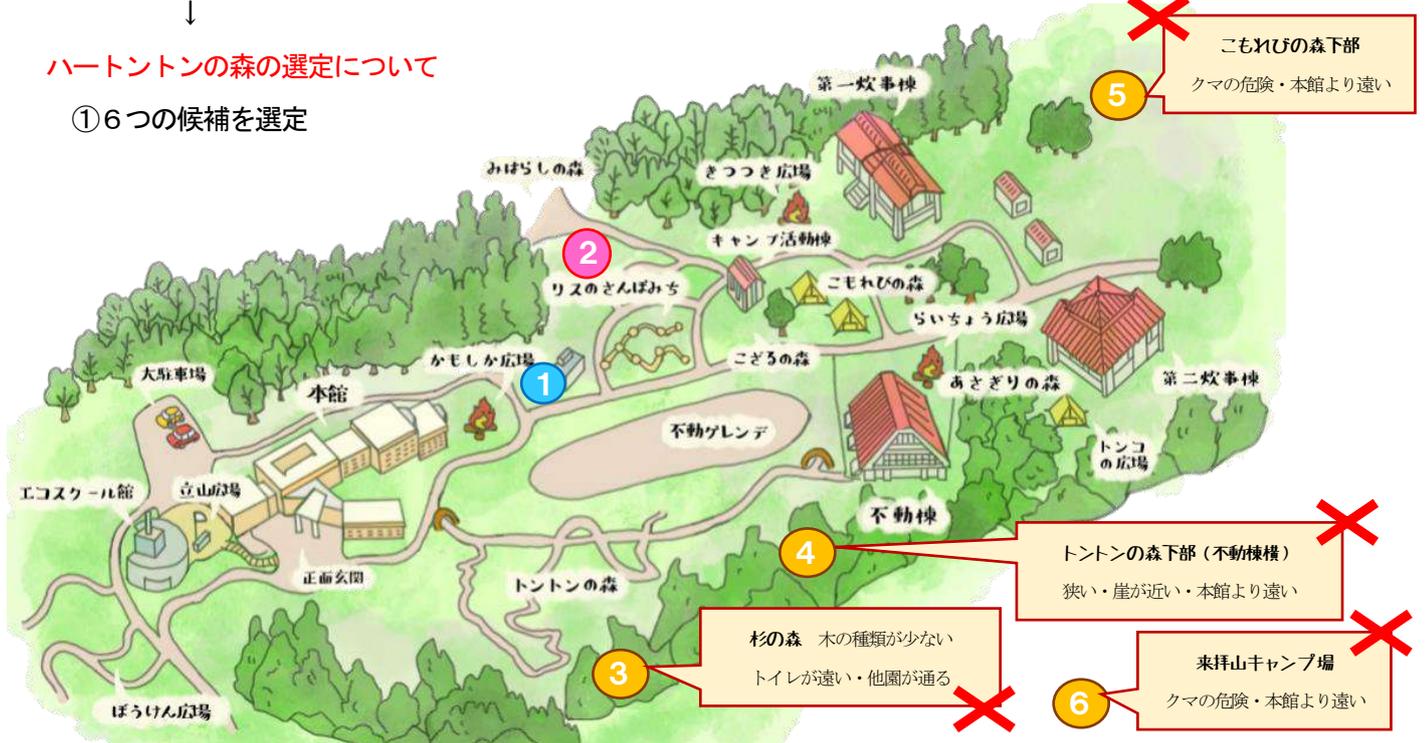
協議1 幼児事業「やんちゃキッズの大冒険 夏」

◇「生の物」に触れる、本物に触れる体験の必要性…専門部会のまとめ(3)より



ハートントンの森の選定について

①6つの候補を選定



第1候補 かもしか広場下部(「みはらしへの近道」周辺) ①

第2候補 みはらしの森周辺 ②

写真	<p>一部を新たに切りひらく・草刈りされた部分を整備</p>	<p>森に小スペース(直径2.5mの円)を多く作る</p>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>見渡せる範囲で子供たちが自由に活動できる。</li> <li>様々な木や葉がある(活動の材がある)。+杉林</li> <li>日陰になっており、過ごしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小スペースがあらかじめ設置されており、他グループと別れているため、活動に集中しやすい。</li> <li>様々な木や葉がある(活動の材がある)。</li> </ul>
×	<ul style="list-style-type: none"> <li>崖に近い(写真右側)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブースが分かれているため、指導者の目が届かない場合がある。</li> </ul>
プログラム化に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>本館より近い(活動時間を多く確保できる)</li> <li>トイレ(赤棟)</li> <li>全員の活動を見渡せるため、安全管理をしやすい。</li> <li>丸太等の材(赤棟横プレハブ小屋を使用して保管)</li> <li>60名程度使用可能</li> <li>未活用スペースの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本館より遠い</li> <li>トイレ(不動棟・1炊横野外トイレ・キャン活)</li> <li>ブースに分かれているため、一斉指導が難しい。</li> <li>丸太等の材(キャンプ活動棟物置に保管)</li> <li>30名程度使用可能</li> <li>キャンプ活動等の活用</li> </ul>

②6つから候補を2つに絞る ① ②



キーワード ・「多様な自然を体験できる場所」

※既存の「トントンの森」で触れる⇒「ハートントンの森」での活動へ

- ・開所当初の理念を大切に「外界と離れたクローズな空間」
- ・どこでもできる森「ナショナルセンターとして発信」

③どちらの森にもよさがある ⇒ まずは ① を作成。今後 ② 周辺を開発。

① の森のよさ

◇自然物	主な樹木…ウリハダカエデ・オオカメノキ・杉 等
	遊びに使用できる材…チシマザサの棒（森を切り拓いた時の稈の下部） 約20cm
	丸太（森を切り拓いた時に切った木の幹） 長さ約1m
	丸太（森を切り拓いて境界線として置いたもの） 長さ約3m
	落ち葉 ・ 葉っぱ ・ 黒土 ・ 木の根っこ ・ 枝
	切り株 ・ 木登りに適した幹 ・ クリのいが
◇トントンの森に比べて	「広い」「明るい」「落ち葉のふわふわ感」
◇適度な起伏がある森である	
◇景色がよい（対岸のスキー場が見える）	

◇「自由遊びのイメージを高める」…専門部会のまとめ（4）より



ハートントンの森での活動の工夫

	案（第1回専門部会で提案）	実施（案） ※本番は、雨天のため一部変更
日程	「やんちゃキッズの大冒険 夏」 （2泊3日） 1日目 5時間のみ	1日目…2時間（トントンの森・自然体験1＋ ハートントンの森との出会い1） 2日目…4時間（ハートントンの森・お気に入りの場所づくり）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トントンの森」に、地形や自然物を生かした、幼児の心が落ち着き、自然を好きになることができる場所を選定（「杉の森」内）</li> <li>・森にあるものを生かした自分たちだけの特別な居場所づくりを行う。 自然物を生かした部屋づくり 杉林や落ち葉のふかふか絨毯 等</li> <li>・自然を使った遊びの開発 根っこでバランスゲーム 枝で弓矢づくり 木登り競走 木の滑り台 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形や自然物を生かした、幼児の心が落ち着き、自然を好きになることができる場所「ハートントンの森」を新設。</li> <li>・森にある自然物のみを使用して、自分のお気に入りの場所づくりを行う。</li> <li>①「トントンの森」にて、森に対しての理解を深め、「ハートントンの森」での活動へのイメージを膨らませる。</li> <li>②「ハートントンの森」と出会い、自分の気に入った場所を見付け、宝物（お気に入りの場所づくりのアイテム）を集める。</li> <li>③自分のお気に入りの場所をつくる。</li> <li>④お気に入りの場所でおやつやご飯を食べる。</li> <li>⑤活動終了後のキャンプファイヤー時に、ハートントンの森の妖精が子供たちの活動を認める時間を設定する。</li> <li>⑥最終日に、お気に入りの場所での思い出を絵で表す。</li> </ul>
補足		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの好きなことをする</li> <li>・グループは作らない</li> <li>・お気に入りの場所に名前を付ける。</li> <li>・自然体験を通して感じた擬音語を表現することにより、自然体験をより身近に感じることができるようにする。</li> </ul>

◇「自然の中で指導者が投げかける言葉は、幼児が学ぶ出発点」…専門部会のまとめ（5）より



進行案の作成 ・活動や指導者の言葉かけを吟味

## 進行案

ワクワクふわふわ「ハートントンの森」での活動

【1日目】 8月18日（木）

15:00 森を感じよう（森への動機付け）

・トントンの森で森に対する理解を深め、ハートントンの森づくりへのイメージを膨らませる。

「これからトントンの森の探検へ出かけるよ。森の素敵なおとこをたくさん見つけてね。」

※トントンの森①→②→③→④→⑤コースを使用。擬音語にならない場合もある。

（体験1）葉 … ホオノキ 「ほおー」 → 顔と大きさを比べる

「この葉っぱの大きさはどうかな？」

「わあ、大きい。」

「ほお〜。これはホオノキの葉っぱだよ。みんなの顔とどちらが大きいかな？」

「みんなもやってみて。」

（体験2）葉 … ユキツバキ 「つやつや・ざらざら」 → さわる・頬に当てる

「この葉っぱを触ってみてね。」

「わあ、つやつやしている。ピカピカしている。」

「これはユキツバキの葉っぱだよ。トントンの森には、いろんな葉っぱがあるね。」

「裏を触ってみたらどうかな？」

「わあ、ざらざらしている！」

「他にも葉っぱを探してみてね。葉っぱで遊んだことはあるかな？」

「落ち葉布団をつくったことがあるよ。」「葉っぱで笛を作ったことがあるよ。」

「いいね。葉っぱを使って楽しく遊べそうだね。」

（体験3）遊び … ツルツルの木「つるつる」 → 登る・頬ずり・手触りで感じる

「おもしろい木があるよ。手やほっぺで触ってみて。」

「ツルツルだよ。」「ゆさゆさしている。」

「ツルツル・ゆさゆさしている木に登ることができるかな。挑戦してみよう！」

（体験4）におい … クロモジ 「いいにおい」 → 嗅いでみる

「この枝の付け根の匂いを嗅いでみて。どんなにおいがするかな。」

「なんかいい匂いがする。」

「これはクロモジという木だよ。いい匂いがするね。ばい菌をやっつけてくれるから葉としても使うんだよ。」

（体験5）強さ … スギ 「つよい」 → 杉の木とお相撲

「ここは杉の木の森だよ。みんなと杉の木でお相撲をしてみよう。どっちが強いかな？」

「はっけよい、のこった。」

「わあ、みんなで頑張っても押せない…。」

「木はとっても強いね。タコの足のような大きな根っこが土の中にたくさんあるよ。その根っこが木を支えているんだ。道を歩くとその根っこがたくさん見えるよ。」

「木を抱きしめて、セミになってもおもしろいよ。やってみよう。」

「トントンの森には、素敵なおとこがたくさんあったね。」

**ポイント1**  
子供の発言に「いいね！」  
→ 自分の感性を認めてもらえ、自然体験をより楽しむようになる。

予めホオノキの葉を複数枚集めておく。

予めクロモジの枝を複数個集めておく。



1日目の森への動機付け（トントンの森）での活動の後に、みんなで話し合っ集めた擬音語。

【2日目】 8月19日（金）

8:30 ハートントンの森を感じよう（ハートントンの森との出会い）

・ハートントンの森と出会い、自分の気に入った場所を見付け、宝物（居場所づくりのアイテム）を集める。

**ポイント2**

作成途中に子供の見付けた擬音語を適宜掲示して認める

→ 擬音語を集める活動もよりどころとして、自然の素材を見付け、自然遊びを楽しむ子供を育てる。

擬音語は、葉っぱの形をした紙（ラミネート済み）に油性マジックで書き、麻ひもを使用して掲示する。

「ここがハートントンの森（ハーの部分ゆっくり、表情を工夫しながら言う）だよ。みんなの心、ハートがあったかへくなる森なんだよ。どんな感じがする森かな？」

「おもしろい木がいっぱいある。」

「地面がなんだかふわふわする。」

「明るい森（広い森）で気持ちいい。」

「このハートントンの森に、自分のお気に入りの場所をつくりましょう。森にあるものを自由に使っていていいですよ。」

（自分のお気に入りの場所（木・窪地・斜面・見晴らし等）が見つかった頃に）

「自分のお気に入りの場所に名前を付けましょう。」

※個々に、指導者やボランティアが声かけをする。

※自分のお気に入りの場所の「名前」とその「理由」を企画指導専門職が作成した用紙をもとにボランティアが聞き取り、書き込む。また、その子供が使用した擬音語も記入する。

11:00 昼食づくり（おにぎり）

12:00 昼食

※森におにぎりを持っていく。森で、棒付きフランクを焼く。

13:00 ハートントンの森でのお気に入りの場所づくり（続き）

14:45 ハートントンの森での活動終了 おやつ&インタビュータイムへ

※食べている間に、インタビュー（熊本・真正・岡本）

・「楽しかった」ことを聞き取り類型化

・楽しかった度「楽しい・普通・楽しくない」を調査

・動画撮影した様子から、自然の中で楽しく遊んでいるかを分析する。

（活動への積極性・発言・行動・関わり等より）

19:00 キャンプファイヤー（子供たちへのフィードバック…活動を認め、より自然体験が好きになるように）

・ハートントン森の妖精（ボランティア）が登場。

※「みんなのこと見てたよ。」「〇〇がよかったよ」と声をかけてもらう。

**ポイント3**

基本的な指導者の姿勢として子供たちの活動を見守る。

→ 子供たちが主体的に考えて行動することができるよう声をかける。

（例）C:こんな風にしたいな。T:どうしたらそんな風に見えるかな？

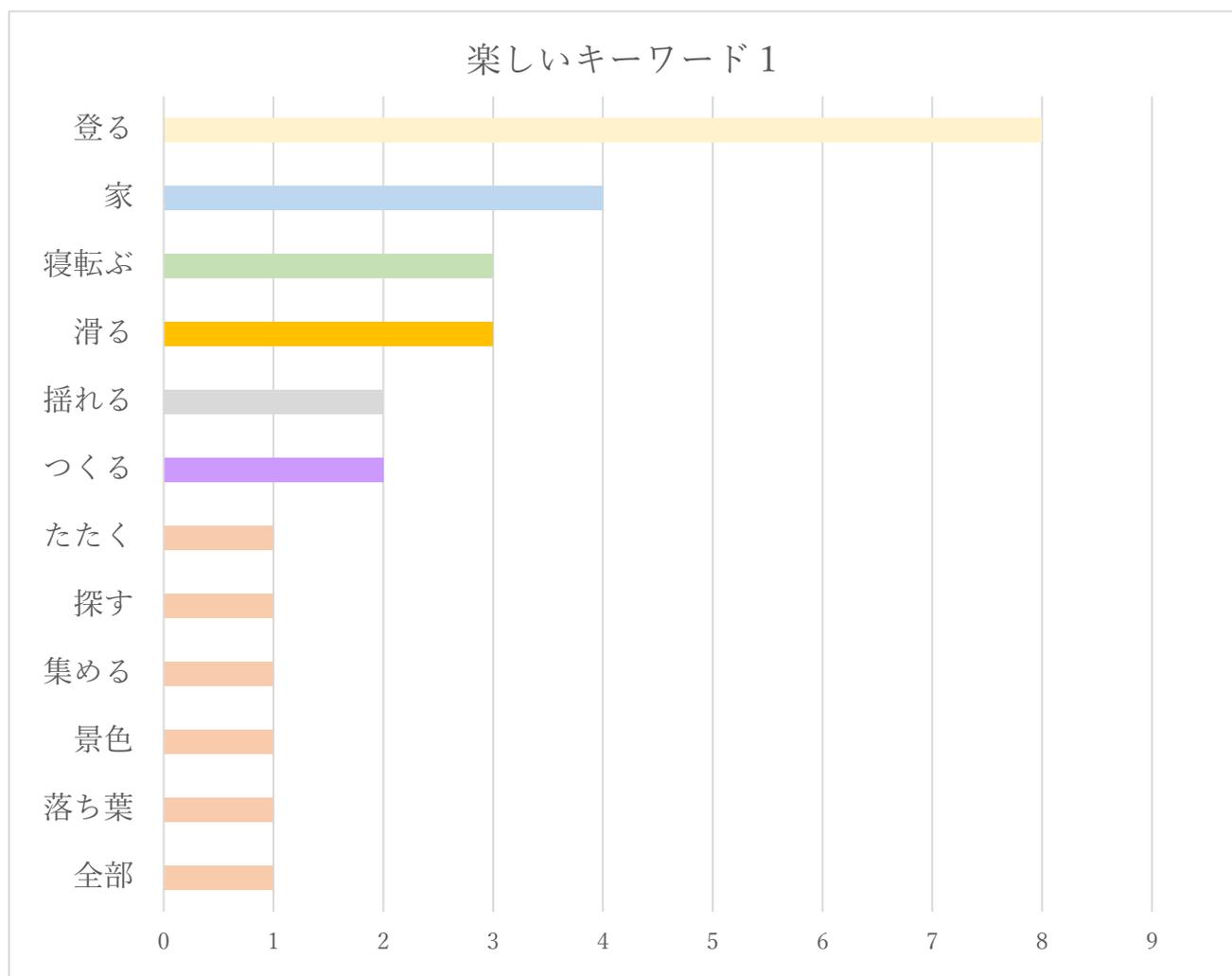
【3日目】 8月20日（土）

13:00 思い出のお絵描きタイム（ノンバーバル・非言語の幼児の世界だと、言葉より絵の方が表現しやすいこともある。絵を回収し、楽しかったことについてのインタビューと重ねて研究する）

「ハートントンの森でお気に入りの場所を作ったときに、楽しかったことを絵に描きましょう。」

## インタビュー内容・擬音語の考察

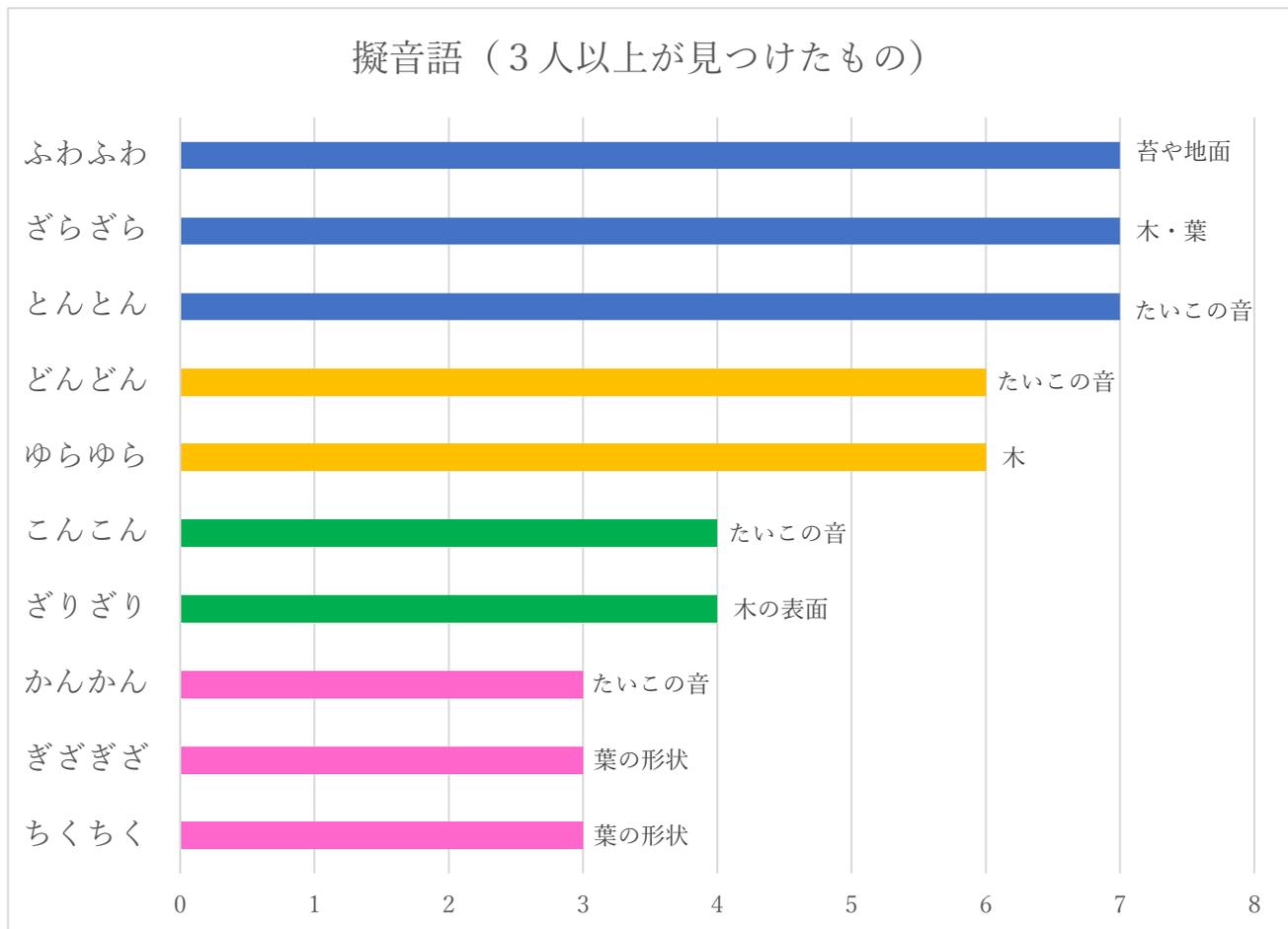
◇インタビュー内容（楽しいキーワード）について



### <考察>

- ・ 楽しいキーワード1を見ると、「登る」・「寝転ぶ」・「滑る」等、行動を表すキーワードが多い。このことから、子供たちは能動的に自然とかかわることができたと読み取れる。また、ハートントンの森で、たくさんの活動が展開されたことが読み取れる。ハートントンの森には、遊びの要素がたくさん含まれていることを裏付けると考える。
- ・ 楽しいキーワード2を見ると、「みんな」というキーワードを出す子供が7人（約25%）いる。「誘導」を伴う「一斉遊び」ではなく、「自由遊び」を設定したところ、偶然お気に入りの場所が重なり共に遊びを楽しみたい子供、友達にお気に入りの場所を共有したい子供、自分の場所のよさを友達に承認してほしいという子供等の様々な思いが湧き上がって、自分たちで楽しみをつくったと考えられるのではないかと。

◇擬音語について



<その他>

ぺちぺち さらさら びよんびよん つるつる ふかふか わくわく ばたばた ちゃちゃ かつこつ ぶち  
 ぼっぼっ ひらひら ぼっぼっ ばちばち ぼかぼか きっきっ とっとっ とことこ こっこっ ちん  
 たんたん かちかち ざくざく がたがた ごつごつ かたかた がさがさ

<考察>

- 今回は、「お気に入りの場所をつくろう」というテーマのもとで「自然にどっぷりつかる」活動を行った。ゆったりとした時間の中で、ハートントンの森にある様々な自然物に思いのまま触れたことを通して、肌感覚の言葉が数多く表現された。

7人以上が見つけた擬音語が出た理由について考察する。

「ふわふわ」… この森の特徴である柔らかい地面を子供たちがよく感じたからと考える

「ざらざら」… トントンの森で指先や手の平や頬等の様々な部分で森を感じ取ることができるよう動機付けを行ったからと考える

「とんとん」… 森を切り拓いた際に出たチシマザサの稈の下部をバチとして利用したからと考える

今回のテーマではなく、例えば、「やんちゃな森をつくろう」などと投げかけると、違う種類の擬音語が上位に来たのではないかと推測される。

- 活動を通して、幼児は擬音語の種類を数多く見付けた。今後、「音楽の森で遊ぼう」「かっこいい秘密基地をつくろう」などと数多くのテーマで森で遊ぶプログラムを提供できると考える。

## ハートントンの森での活動について「お気に入りの場所づくり」

### 成果

- ・「ハートントンの森」での活動前に「トントンの森」で森のよさを感じるための探検を実施したことで、自然物を見付ける体験のおもしろさや、森で遊ぶ楽しさを感じ、ワクワク感をもって「ハートントンの森」での活動に臨む姿が見られた。
- ・擬音語集めをしたこと、指導者が幼児の擬音語集め活動を認めたこと、ボランティアが幼児の見付けた擬音語を掲示したことにより、幼児は擬音語集めを楽しみ、自然への興味・関心を高めるきっかけとなった。
- ・一人一人の思いや感覚を大切に、自然物の材が豊富な森で活動したことで、幼児は長時間どっぷりと自然とかわり、楽しく遊ぶ姿が見られた。
- ・お気に入りの場所に名前を付けたことで、お気に入りの場所をより身近に感じる事ができた。

### 課題

- ・②の森の方が、開設当初の理念である「外界と離れたクローズな空間」として適している。今後、②の森を開発し、幼児がより「自然にどっぷりとつかる」ことができるようにしたい。
- ・擬音語集めにも効果はあるが、擬音語にできない表現も認める必要性があったのではないか。
- ・プログラム化の際に、自然物の他にロープ等の材が必要となるか、時間配分をどうすればよいか、今後検証が必要である。
- ・崖周辺で滑る活動等、事故につながる可能性がある活動については、安全策を設置する等、今後の対応が必要である。

## 所内委員会での決定事項（第2回専門部会の内容を受けて）

### 「WA んぱくキッズの森もりキャンプ 秋」に向けて

- ◇指導者 宮崎 企画指導専門職
- ◇観察者 熊木 主任企画指導専門職・真正 企画指導専門職・岡本 企画指導専門職・ボランティア15名
- ◇実施日 10月30日（日）の4時間 8:30~12:30
- ◇場所 ハートントンの森・リスの散歩道・こざるの森・見晴らしの森・こもれびの森・トントンの森  
※自由に探索して秋見つけをする。 ※前日にボラが子供たちと歩き、動機付けを行う。

#### ◇抽出児の様子を記録

「投げかけ方が重要…」

「幼児教育の場合、どれだけ子供を理解して、内側をのぞくことができるかということが全ての勝負と言われている。言葉で出す子供もいれば、そうでない子もいる。… 大人が子供の言葉を引き出すというよりも、子供から出てくるものをいかに拾い上げるかということが重要。」

→ トントンの森の探検経験の有無によって抽出した15名の活動の様子をボランティア・スタッフで記録する。

#### ◇指導者の第1発問について

「小さい子供たちは森の中でいろいろ見付けると、何かに見立てる。… 見立てる、みなすことが得意。」

→ 「立少には、こんなものがあります。」 ※具体物を見せる。

「これで何してみたい?」「他にも昨日の探検で見つけたものがいっぱいあったよね。それで何ができるかな。」

※ 成果物…立体的な作品・平面の作品、見つけた秋を利用して遊ぶ、数を数える等

#### ◇雨天時案

「雨天時のバーチャル活動は行ってもよい。理由は、寒い、冷たいなど、雨のせいで自然体験活動が嫌になったと思わせないようにしたい。バーチャルと具体物を組み合わせるのは現場でも応用できる。重要視するのは、「来年も秋見つけをしたい」という思いを残すことが大切。」

→ ビデオの撮影 (①トントン森を探検動画 ②ハートントンの森の1日 ③落ち葉の動画)

### 「研究のつながりについて」

	幼児	低学年	中学年	高学年
学習環境	広葉樹の森			山・川・海
活動	お気に入りの場所を見つけよう (自由遊び)	見つけた秋で何したい? ※1・2・3 (意図的な自由遊び)	(案) 冬芽や冬の動植物についての学習	清流王国とやまの水守り隊
子供の見取り方	非言語 擬音語	言葉 (話す・書く)		
キーワード	内側をのぞく	生活経験から生まれる言葉	理科の見方・考え方を気付きをもとに楽しむ言葉	主体的に問題解決しようとする言葉

※1 「秋を見つける」「見つけた秋をつかって〇〇する」という2つの活動の中で、自然を感じる、自然の変化に気付く学習を行う。さらに自分の感じたこと(考えたこと)を意欲的に表現(言葉・活動・作品等)できる児童の育成を図る。

※2 全てのものに命があるという幼児の言葉をもしっかりと取り上げる。

※3 中学年の学習「冬芽や冬の動植物の学習(案)」につなげる。

## 「見つけた秋で何したい？」の活動

【1日目】10月29日(土) ※ ボランティア進行

13:00 「秋の森で遊ぼう」(秋の自然を感じる①)

【ハートントンの森・こもれびの森・みはらしの森・あさぎりの森・きつつき広場】

- ・様々な秋の森の森を探検しながら、「お弁当づくり」「お題に合う葉を見付けるゲーム」「釣り糸と枝で葉っぱを釣るゲーム」「秋探し」などの活動を通して、秋の自然を構成する様々な要素に気づき、楽しんだ。

19:00 「夜の自然を歩こう」(秋の自然を感じる②)

- ・夜の森を静かに歩く、木に耳を当てて木の声を聴く、手の感触だけでどの自然物かを推測する、星空を観察するなどの活動を通して、五感を研ぎ澄まし、昼と夜の違いを感じながら楽しんだ。



【2日目】10月30日(日)

「見つけた秋で何したい？」(見つけた秋で〇〇する) ※ 教育事業

事前に本部に準備したもの

マジック、クレヨン、クーピー、はさみ、カッター、のこぎり(小)、色ガムテープ、スズランテープ、画用紙、麻ひも、タコ糸、木工用ボンド

8:30 導入

「立少には、こんなものがあります。」「秋だねえ。」 ※ 具体物を見せる。

「これで何してみたい？」

「他にも昨日の探検で見つけたものがいっぱいあったよね。それで何ができるかな。」

「してみたいことが見つかった人から、秋見つけに出発しよう。」

「10:30には、みんなここに戻ってきて、したいことをしようね。」

「ここ(本部)にあるものは、何でも自由に使っていいよ。」

9:00 「秋見つけ」

※ (次ページ参照)

10:30 「みんなで集まって、作ったり、遊んだり」

13:00 活動終了後にアンケートを行う

- ・楽しかった度(楽しい・普通・楽しくない)「見つけた秋で何をしたか」「どんな気持ちで活動していたか」を調査
- ・動画撮影した様子から、自分の感じたことをどのように表現しているか分析。(活動への積極性・発言・行動・関わり等より)
- ・トントンの森の体験経験の有無で抽出した児童15名の動画撮影・活動内容調査(トントんたんけん隊・教育事業・家族で参加、なし)

### ◇雨天時案(外で全く活動できない場合)

- ・室内にて、秋に収集可能な自然物を生かして何をしたいか考えて、思い思いに実践する。

※ 実…ドングリ・クリ・トチ・ヤシャブシ・カラマツ 等

葉…オオカメノキ・モミジ・ホオノキ・カエデ・ミズナラ・コナラ 等

※ 自然物は、職員が事前に集めておく。

※ 自然物が、どの木のどの部分かが分かる動画をいつでも見るようにする。

+

- ・自然の映像を室内に常時投影し、自然を感じるができるようにする。

①トントンの森を探検している動画

②ハートントンの森の1日を固定カメラで捉えた動画

③落ち葉が落ちる様子の動画

「クリって秋だよね」

「これってキツツキの開けた穴だよ。」

「これダニの巣やろ。この中におるんよ。」

「あつ、キノコ。これ硬いね。」

「カマキリの卵みたい。」

「この葉っぱ、丸くて月みたい。」

「木の声聞いた。木はテレビを見てた。」

「クリさんかわいそう。」

「ううん…秋だけなんかないか不気味…」

「あっ！モンシロチョウ。トンボもいっぱい。」

「ススキもとる。あつ、根っこからとれた。でもこれ元気なさそう。」

「落ち葉踏むといい音がする。」

「もじゃもじゃしてるやつ何だろう？」

「こんな形なんだ。」

「土に入れたら、アメンボの木できるかなあ。」

【トントンの森】

・1人で探したり、仲間を案内したりしながら、葉っぱや枝、木の実を探す。  
・木登りをする。

【不動ゲレンデ】

・トンボを捕まえる。  
・ススキとりをする。

【おたまじやくの池】

・池や小川を見つめる。  
・アメンボを捕まえる。

【あざぎりの森】

・昨日行った「お題に合う葉を見つけるゲーム（葉っぱば）」で仲間と遊ぶ。

「葉っぱばしよう。」

【トンロの広場】

・葉っぱ探しやススキとりをする。

「いい葉っぱが全然ない。  
この葉っぱはおいしいのかな？  
いっぱい食べられとる。」

【こもりの森】

・仲間やスタッフに見つけた秋を自慢げに紹介する。

「これ、宝石。宝石あるよ。」

「秋って何？」

「15分何作るか考えて〜、1時間作って、遊ぶ。」

【本部】※トントンの森出口付近の芝生

・1人で作ったり、仲間と作ったり（遊び）ながら、繰り返し新しい材料を見つげに行く。  
・クラフトづくり。（ピアス、ペンダント、リース、冠、頭飾り、壁飾り、うちわ、動物の人形、楽器、おはぎ など）  
・作品で仲間と遊ぶ。（剣、ほうき、弓矢、釣り竿、吹き矢、爆弾 など） ・自分たち考えたゲームを出店のようにして、仲間と遊ぶ。  
・作品に名前をつける。（「あおぐと秋の匂いがするうちわ」、「秋たっぷり剣」 など）  
・クレヨンで画用紙をこすり、葉脈をうつす。  
・プレセントづくり（葉っぱのお手紙をポランテニア学生に、木の皮の冠をママに など）

「チームワークで作る。」

「これ、きれいな色！ペンダントにしたい。」

「目は木の枝より、木の葉の方がいいなあ。」

「この葉っぱ、お正月に鬼来んようにイワシ置くやつに似てる。」

「秋の葉を画用紙に貼って、家に飾ればいつでも秋を感じられる。」

「景色きれいだよ」

「景色いいから10秒目つぶってあげたら、もっときれいにみえるんじゃない。」

「あそこめっちゃ紅葉してる。赤、茶色、冬になったら葉っぱ落ちるけど…」

「きたー！キヤッチャー！」

「あ！今、空から降ってきた。僕たちのために落ちてきた。」

「何で葉っぱって枯れるんだらう？」

「何で赤くなったり、黄色くなるんだらう？」

【こざるの森】

・とちの実やドングリを拾う。  
・トンボ捕まえる。

【ハートントンの森】

・水登りをする。  
・リスの散歩道

・トンボを捕まえる。

「木の上から見つける。上から見つけるの得意。」

「クリばかり。」

【みはらしの森】

・友達と落ち葉キャッチャチをする。  
・ハンモックアブランコで遊ぶ。

## 活動の様子から

◇事前に秋の自然を観察したり、本番に十分な自由遊びの時間を設定したりすることによって、子供たちは時間いっぱい、見つけた秋を用いて遊ぶ姿が見られた。また、成果物を宝物と捉え、大切にすることが15.6%いた。

※下線部…どんな気持ちで活動していたかを聞き取った際、以下のように答えた子供

(お母さんにプレゼント…2名、宝物を見つける・宝石…2名、家で遊びたい…1名)

<自然の家で「秋見つけ」を実施すると効果的である点>

- ・感じる・気付く（色・形・大きさ、ものに見立てる、いろいろな視点から見るができる）
- ・疑問をもつ（本施設での活動では自然が身近にあり、疑問を解決しやすい場所である）
- ・命の存在に気付く言葉（本物を見るからこそ、自然をより身近に感じることができる）

◇多様な自然体験ができる場での自然体験活動を通して、「クリさんかわいそう」と自然を人として捉えるなど、自然の存在を身近に感じる子供がいた。また、「何で葉っぱは落ちるのだろう？」などと、自然事象に疑問をもつ子供がいた。実践研究を行う自然の家の広葉樹の森の中において、子供たちが疑問をもちやすい点をさらに検証して、中学年の命の大切さを意識した理科学習につなげていきたい。

◇トントンの森の体験経験者が、未経験者をトントンの森へ案内する姿や他の季節のトントンの森の様子と比較する姿が見られた。今回の教育事業に参加した子供は、家族で本施設を何度も利用したり、野外活動をよく楽しんでいたりする割合が高いと考えられる。よって、経験者の方がより深く自然環境にひたることができたと言えるほどの有意差をはっきりと検証することはできなかった。

## 第3回専門部会の内容を受けて

### 「WA んぱくキッズの森もりキャンプ 冬」に向けて

- ◇指導者 宮崎 企画指導専門職
- ◇観察者 ボランティア12名
- ◇実施日 2月19日(日)の4時間 8:30~12:30
- ◇場所 ハートントンの森・トントンの森
- ◇活動内容 冬の森の不思議を探し、その答えを見付ける。

#### ◇「雪の中でも一生懸命に生きている姿」

「雪の下の芽吹きを見つけて、植物はがんばって生きているんだね、という体験が大切」

「雪の中でがんばっているな、すごいなって感動できればいい。そんな体験をさせたい」

「冬は生き物が全部死んでしまって、死の世界というイメージがあるが、違うんだということをみんなで共有して、だから自然は面白いんだというところにつなげたい」

- ①子供たちが活動する前の導入として、秋は立少周辺の木々が紅葉し、やがては落葉する様子を見せ、木は落葉するとどうなるのかを考えさせる。【室内にて】
- ②自然の中での体験活動の前に、冬の森で頑張っている生き物の様子をいくつか紹介する。

#### ◇学びの共有

「一人ではないので、必ず気づきを共有する」

「集団で学んでいるからこそ、自分では発見できないことも、友達が見付けて共有できる」

- ①自然体験活動は、自由に行うが、自然体験活動前後の導入とまとめの時間に、小グループや全体での話し合いや共有の時間を適宜設定する。
- ②活動エリアを精選して限定することで、子供たちが自然と周囲の子供の学びを感じられるようにする。

#### ◇子供たちが自分の思いをおそれずに言葉に出せる環境設定

「自然の中では、大人と子供の境界がなくなる。大人も子供も同じものを見て、同じように驚いたりおもしろがったりして、対等に向き合い、つきあえる。教室ではできない体験である。」

「間違ったことを言ったら叱られる、止められる、修正させられるという経験ばかりの子供たちである。ここでは何を言っても大丈夫という安心感をもたせたい。一人でも多くの大人がそういう思いをもって関わるのが大事。」

「つぶやくというのは自発的に、自分の中から出てきた言葉である。子供は、つぶやくと同時に考えている。感じたり考えたりしたことを自分の言葉にしている。その経験が豊富であればあるほど、自分で考える力の礎になると思う。」

「自然に触れて、つぶやく」＝「何かを感じたり考えたりして心の動きがある、それを自分の言葉で表現する」これは、大切な行為である。それがあればあるほど、中学年、高学年になっていくと、考える力の基礎になる。」

「子供の気づきを指導者が認めることが重要。見つけたことも大事だが、自分の力でできたこと、考えたことを認めること、それらの積み重ねが子供の自信につながる。」

「指導者、保育者は、共感することや一緒に驚くことが大事。」

「保育者と子供のやりとりのありかたのパターンとして、子供から出てきた発言を繰り返す方法がある。もう一つは、

「そうだね、そう思うんだね。」と「受け止める」。絶対にしてはいけないのは「否定する」こと。」

- 「共感」、「繰り返し」、「受け止め」、「つぶやきを深める」というキーワードをもとにした観察法を、指導者と観察者のボランティアとが共通理解する。

## 進行案 「冬の森で生きる」の活動

参加者：23名（3・4年生）

指導者：宮崎企画指導専門職 指導補助：熊木主任企画指導専門職・岡本企画指導専門職・真正企画指導専門職

観察者：ボランティア12名（参加者23名より各学年男女3名ずつ抽出した12名の観察記録をとる）

【1日目】 2月18日（土）

13:30 冬の森で遊ぼう（冬の自然を感じる） ※ ボランティア進行

【ハートントンの森～みはらしの森】

かんじきを履いて森を探検する。その中で、冬の自然を構成する様々な要素に気づき、楽しむ。

【2日目】 2月19日（日）

「冬の森で生きる」 ※ 教育事業・理科学習

8:30 ◇導入【101】

45分間 「3枚の写真を比べてみましょう。」 ※トントンの森の夏と秋と冬の落葉樹の様子を比べる。【比較】

「ビデオを見ましょう。」 ※WAんぱく秋の際の落ち葉が落ちる様子を見せる。

「木が葉っぱを落とすのは不思議だね。葉っぱが全部落ちた木は、どうなるのかな？」

葉っぱが全部落ちた木がどうなっているか、既習事項や生活体験をもとに話し合う。

①グループで話し合う ②全体で話し合う（板書：ボランティア）

・「木は落葉しても、寒い森の中で生きていること」に気付かせるような話し合いとする。

・指導者は、「共感」「繰り返し」「受け止め」を大切にしながら、話を聞く。

「いろいろな考えがありましたね。木が葉っぱを落とす他にも、冬の森には、不思議なことがたくさんあります。実際に外に出て、冬の森の動物・植物・昆虫の不思議を見つけよう。そして、不思議なことの答えを見つけよう。この部屋にあるものは自由に使ってよいです。足りないものがあれば、スタッフやボランティアに伝えてください。」

### 101に準備するもの

ルーペ・ビニール袋（収集用）・観察ノート・鉛筆・ハサミ・カッター・カッター板・図書資料・タブレット

9:30 ◇活動開始【トントンの森・ハートントンの森・101】

90分間 森での現地学習と、101での調べ活動（図書・インターネット）を個人で適宜行う。

①不思議を紹介する。

・根開き ⇒ 雪の下にあるツバキやクマザサ ⇒ 雪中と地中の温度の違い ⇒ コブシの冬芽

②各自で不思議を見つける。…スタッフやボラから見えないところには行かない。

冬の森の不思議の例

・種を作り命をつなげる（植物） … 種を探す・調べる

・落葉しても枝に芽をつけて冬を越す … 冬芽の種類を見付ける・調べる・比較する

・冬眠・休眠する（動物・昆虫） … 動物の痕跡を探す（足跡・糞）

・蛹や卵で冬越しする（昆虫） など … 虫を探す・蛹や卵を探す・調べる

11:45 ◇まとめ【101】

45分間 学びの発表会

①学びの振り返り（学んだこと・今後学びたいことを用紙に記入し整理する）

②グループでのミニ発表会 ⇒ ③全体への発表（重ならないように担当が人数と内容を調整）

④発表会を終えての振り返り（一人で）

12:30 ◇活動終了

ナショナルセンターとして、以下を意識しながら本教育事業を行う。

### 自ら探究学習を展開することができる系統的な環境教育プログラム

幼児「ハートントンの森でのお気に入りの場所づくり」・低学年「見つけた秋で何したい？」

⇒ 中学年「寒さから命を守る工夫を調べる」 ⇒ 高学年「清流王国とやまの水守り隊」

命の循環…「落葉（土壌の保湿）・糞・死骸」⇒「土（豊かな土壌・水分を含む土壌）」⇒「森（水や空気の循環）」

## 「冬の森で生きる」活動の様子

: 参加者の主な活動

: 活動時のつぶやきや発言

: 指導者の発問

### ① 「室内での学習（導入）」 8 : 30

- ・ トントンの森の夏、秋、冬の様子を写真で確認した。
- ・ 落ち葉落ちる様子を動画で見て、「何で秋になると葉っぱを落とすのか。葉っぱが落ちた冬の木はどうなるのか。」について、考え、グループや全体の前で発表した。

「木が葉っぱを落とすのは不思議だね。葉っぱが全部落ちた木は、どうなるのかな？」

「葉っぱの色が変わるのは、落ちますよってサイン。」

「葉っぱは、春に赤ちゃんとして生まれてきて、夏にたくましく生きる。秋は新しい葉を生む準備。冬に落ちて、また生まれる。ループしている。木の幹は死なない。」

「葉っぱは落ちないといけない。そうしないと春や夏が始まらないし、動物が食べるものがない。」

「太陽の光がなくなって、栄養が摂れなくなって、葉っぱが落ちる。冬は寒いから木も弱ってしまうんじゃないかなあ。」

「葉は人みたい。枯れたら死んだ。木は地面みたい。切られても生きている。」

### ② 「興味をもつための手立て（すぐに活動に取り組めない子のために）」 9 : 00

- ・ 全員でトントンの森に入り、散策をしながら、指導者の「根開き」「切られた木」「雪の中の温度」について考え、発表した。

「何で、木の周りの雪は溶けて、穴が開いているんだと思う？」

「木についた雨とか雪が落ちてるからかなあ。」

「雨とかが木をつたって下にいって、溶けるだよ。」

「雪の下にも葉っぱがあるよ。」



(導入時の発表にあった「葉っぱが落ちても木は死んでいない」という発言を受けて、切られた木を見せて)

「この木はどうか？」

「休憩中。冬眠して死んでない。木の幹も死んでない。」「なんとなく死んでると思う。」

「一服中。」「切られても生きてると思う。根っこがある木は、土から栄養を吸収できると思う。」

実験「外の温度、雪の中の温度、雪の下の土の温度は？」

「雪の中が0℃でことは、雪の下は-3℃かも。雪が冷たいし、その下に埋まってるから。」

「土の中の空気が温かいからかなあ。」

「きっと冬眠する動物のために、土は温かいんだよ。」



□ : 参加者の主な活動

□ : 活動時のつぶやきや発言

### ③ 「屋外での学習」 9 : 30

#### 【トントンの森】

- ・木の芽や実をルーペを使って観察し、後で調べるために、様々な種類の芽や実を採取した。
- ・動物の足跡を見つけたら、うんちを見つけたら、うんちの中を後で調べたいと、採取した。
- ・枝や芽の色の違いを比べた。
- ・大きな木と小さな木を揺らして、根の強さを調べた。
- ・雪の下は、どうなっているのか雪を掘って観察した。
- ・木にくっついているキノコを採取した。
- ・木のひっかかれた傷を見つけて、他にもないか探した。
- ・木の周りにできた穴をさらに広げて入り、温度を体感した。
- ・木の枝を折りながら、折れにくさの原因を調べた。
- ・コケを見つけてルーペで観察した。

#### 【ハートントンの森】

- ・動物のうんち？木の実？を見つけた。後で調べたいと、採取した。
- ・動物の足跡を追って、ハートントンの森→リスの散歩道→グレンデューリスの散歩道を散策した。

「これ、動物のうんち？木の実？周りにいっぱいあるよ。」

「何の動物の足跡だろう？うさぎ？リス？足跡を追ったらどうなるかなあ。」

「冬で春になるまで、準備しているのかなあ。」  
 「あの木って死んでる。人間とかも枯れたら死ぬもん。」  
 「大きな木は押しても動かなかったけど、小さいのは動いた。根が太いからだよ。根が太いと栄養たくさんだから木が大きくなるだ。」  
 「木にキノコみたくないものがある。普通のキノコと形がちがう。なんて名前だろう？」  
 「何で枝は茶色なのに、つぼみは緑なのかなあ。何で同じなのに色が変わってるんだらう。」

「雪の下にも葉っぱがある。しかも全部緑だ。」

「雪の下って本当にあつたかいかなあ。1℃くらいあつたかいかも。」

「ゴムみたいにふにふにやぶにやぶに歩いて普通の枝のようにぽきぽきと折れない。紙も水に濡れたらふにふにやぶにやぶになるから、水に濡れたせいかなあ。でも、雪でも折れないようにかなあ。今度、違う季節に来て確かめてみよう。」

「コケに毛が生えてるよ。何だろう？場所によって色がちがう。」

「他の木はザラザラしてのに、この木はツルツルしてる。きつと水分が多いからかなあ。」

「この足跡は、ねここかなあ。うさぎかなあ。クマかなあ。きつねかも。」

「これ、動物のうんち。多分、うさぎかな。」

「この傷、熊がひっついたんじゃない。猫も爪とぎするからなあ。」

「カブトムジいないなあ。」



ウサギの糞を観察する様子

「冬の森で生きる」活動の様子

: 参加者の主な活動

: 活動時のつぶやきや発言



④ 「調べ学習 (室内)」 11:00

・採取してきた木の芽や枝、うさぎの糞をルーペでじっくり観察したり、図鑑やタブレットを使ったりして調べ、「ふしぎだなあ? きづいちやった! ノート」にまとめた。

- 【うさぎの糞をつまようじで切って】「うさぎって、葉っぱを食べてるんだよ。匂いも笹の葉の匂いがある。」
- 【採取した木の芽を切って】「黄緑色の種みたいなものがある。周りには、1枚1枚重なっているものがある。きっとこれが春になると葉っぱになるんだ。」
- 【カエデの種子をタブレットで調べて】「プロペラみたいになってるのは、遠くに飛ばすため。きっとカエデの種子がもとになって、飛行機とかのプロペラを作ったんだよ。」
- 【タブレットや図鑑で熊について調べて】「爪あとが、見たのと何か似ている。爪のときあとかな。」
- 【爪の形を調べて】「ヒグマではないような気がする。ヒグマは、5本の爪が前に出ているから。」

ふしぎだなあ? きづいちやった! ノート  
名前 ( )



わたしが目をつけたのはきのこの仲間のかわらたけという植物です。長さは約5cm〜8cmで主にエコキャップスコ分です。生まれては約3〜4cmぐらいです。しおかんはかたいです。生える場所は広葉樹のかれ木の上にもうがて生え色は緑黒です。調べてみてわたしはかわらたけと言う名前すら知らな。たけれどトントンの森でみつけたかわらたけのことをすごく調べてくわしくなれてうれしかったです。

⑤ 「まとめ (共有)」 12:00

・まとめたり調べたりしたことを、グループや全体の前で発表した。

「ぼくは、トントンの森で見つけた蕾について調べました。調べると名前は「コブシ」で、北海道から九州の日本全国の森林や陽のあたる場所に樹勢します・・・」  
「私は大きい木と細い木の根の関係について調べました。大きい木は、根が太いと考えました。根は頑丈なだけでなく、栄養をおくる大事な役割があると思います・・・」

冬の森で生きる

名前 \_\_\_\_\_

◇あてはまるものにまるをつけましょう。

今日の活動は

たのしかった • ぶつう • たのしくなかった

◇ふしぎだなあと思ったことを書きましょう。

木の近くに空気があったこと

◇しらべてみたことや考えたこと、わかったことを書きましょう。

名前 ツリーホールというらしい。それは1時間かを木のうしろに小さいどろくつを作った。ネットではスキーア豆からツリーホールに入り自力では90%のかかりでぬけられたいらしい

◇これからもっとやってみたいと思ったことを書きましょう。

はま、た時のたいしよ法とかどうしてツリーホールか? 生きるのかとかを知りたいです。

## 活動の様子からの考察

◇動物の足跡が続く方向に向けてずっと歩いたり、雪を掘り、雪の中にある葉っぱは雪の上にある葉っぱとどう違うかを調べたりするなど、冬の森で生きる動植物・昆虫に目を向けて、じっくりと観察する活動する姿が見られた。また、十分な自由観察の時間を設定したことによって、雨の中であったが、子供たちは時間いっぱい、冬の森の不思議を探ることができたと考える。

◇自然体験活動前後の導入とまとめの時間に、小グループや全体での話し合いや共有の時間を設定したことで、全員が自分の考えをもち、冬の森の不思議について考えることができた。また、活動エリアを限定したことにより、身近で活動している友達の発見を自然と共有する姿につながった。

◇積極的に自らが見つけた不思議を、図書やタブレットを用いて解明しようとする姿が見られた。班に1台しかタブレットを用意することができなかった。子供たちは学校において1人1端末を貸与され、学習中に自由に検索できる仕組みが全国的に整っている。本施設においても、参加者に1人1端末のタブレットを用意したり、QRコードを読み取ると学びに関係ある内容が表示されるような仕組みを整えたりするなど、時代に応じた方法で体験と学びをリンクさせる必要がある。

◇「共感」、「繰り返し」、「受け止め」、「つぶやきを深める」というキーワードをもとにした観察法を、指導者と観察者が共通理解することで、子供たちは安心して自分の見つけた不思議を解明しようとする姿が見られた。自分の考えた仮説と調べた結果が違った場合においても、これまでの活動を認め、優しく声かけをするボランティアの姿が見られた。観察法を例示したことにより、ボランティアも安心して子供たちに声をかけることができたと言っていた。

<今回の教育事業で見られた主な言葉かけ>

共感	そうだね。ふーん。へえー。うんうん。私もそう思うよ。その通りだね。
繰り返し	〇〇だと考えたんだね。〇〇のように見えるね。
受け止め	子供の考えが、誤っていると分かった場合にも、否定しないで一度受け止める。
つぶやきを深める	どうしてそう考えたの？ どこかで似たような体験がある？

「すごいね」等、子供の考えを称賛する場面も見られた。自分で考えをもてない子供たちに配慮しながらも、何がどうすごいと感じたのかを分かりやすく伝えることで、学び続ける姿につながる場面があった。

◇自ら探究学習を行う姿を求めて学習を展開したが、指導者が発問で誘導した場面では、子供の自然な思考の流れを停止させてしまうことがあった。子供の考えを、「共感」、「繰り返し」、「受け止め」、「つぶやきを深める」という手法で認めながら、子供が何を考えているかをしっかりと捉え、探究のサイクルが継続するよう、指導者は声かけを吟味する必要がある。

◇「自然にどっぴりとつかる」というテーマのもと、本研究をプログラム化していく際に、子供たちの発達段階やねらい、活動時間等に応じた具体的なプログラムを検討する必要がある。その際に、利用団体が「学び」と「体験」のどちらに重点を置くかを考慮したプログラムを提供する必要がある。

「学び」重視	・命の循環を意識した学習 ・落葉広葉樹の森の役割	など
「体験」重視	・冬芽体験コンテスト…冬芽が寒さから身を守る工夫を、自ら体験する ・動物の足跡・糞探し	など